

講演録

スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の
外国語教育と相互理解の諸相

平成22年度～平成25年度科学研究費補助金
基盤研究（C）

課題番号 22520559

平成26年2月

研究代表者 水戸博之

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

講演録

スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の
外国語教育と相互理解の諸相
(平成22年—平成25年度)

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	水戸 博之	1
科学研究費補助金の概要・・・・・・・・・・・・・・・・		2
平成22年度 講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・	カルロス・アギーレ (Carlos Aguirre)	3
・「アルゼンチン音楽の国際性と地域性」(聞き手：西村 秀人)		
(スペイン語と日本語の逐次通訳)		
平成23年度 講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・	河野 彰	26
・「"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？」		
(ポルトガル語)		
平成24年度 講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・	渡辺 マルセロ／松本 里美	48
総合テーマ：「在日外国人の現状～大学ができることは・・・～」		
・「外国人支援のこれから～多様な若者が輝ける社会をめざして～」		
渡辺 マルセロ		
・「多文化な子ども達との日々～犬山・小牧での活動から～」		
松本 里美		
(ファシリテーター：重松 由美／寺澤 宏美)		
平成25年度 講演会・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ホルヘ・アンソレーナ (Jorge Anzorena)	59
・“Un encuentro entre Asia y América Latina en el desarrollo humano”		
--- Actividad de la ACCA (Acción Cumidad Coalición Asiática) ---		
(en español con diapositivas en inglés)		

はじめに

本報告書は、基盤研究（C）課題番号 22520559 研究課題名「スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の外国語教育と相互理解の諸相」（代表・水戸博之）の開始年度平成22年度から平成25年度までの各年度に開催した講演をまとめたものである。本研究は、各年度、海外調査の実施と研究組織である「スペイン語・ポルトガル言語文化圏研究会」が主催する招聘講師による講演会の開催の2つを主要なプロジェクトとして推進してきた。すなわち、調査による研究の深化と講演活動による関連分野の広がりという2つの異なる活動を並行して4年間展開してきたと言える。

昨年度（平成24年度）末に、研究全体の間接報告書を冊子体で作成したが、その際、講演の記録をどのように扱うかということが課題として残った。また、関係者から何らかの形で発表して欲しいという要望も寄せられた。初回からすでに4年近く経過してしまっていたが、幸い3講演の録音が文字化できる状態で保存されており、それ以外の2講師の講演も概要の作成が可能であったことから、講演録を作成することとした。

研究代表者として、反省すべき点は、講演録を作成するという前提で各講師に当初から依頼すべきであったということである。そのため、パワーポイント等の資料をもれなく収録することができず、講演者の意図を反映するには、不十分な結果になってしまったことは、誠に申し訳ない。他方、いずれの講演においても講師とフロアの間には、多くの興味深い質疑応答がなされ、活気ある充実した会となったが、一部を除いて割愛せねばならなかった。しかしながら、いずれの講演もたとえ部分的ではあっても、記録し発表する意義があると確信するところから、本講演録を作成した。なお、使用言語は、スペイン語、ポルトガル語、日本語である。

記録の発表を快諾くださった講師の方々、質問やコメントを寄せられた聴講者の方々へ深くお礼申し上げます。

平成26年1月

研究代表者 水戸 博之

科学研究費補助金の概要

1. 研究課題

基盤研究 (C) 課題番号 22520559

研究課題名：

「スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の外国語教育と相互理解の諸相」

研究代表者：水戸博之

研究期間：平成22年度～平成26年度（予定）

2. 補助金による主要な活動

1) 講演会講師招聘（「スペイン語・ポルトガル語言語文化圏研究会」主催）

平成22年度 Carlos Aguirre（作曲家・ピアノ&ギター奏者）

平成23年度 河野 彰（大阪大学教授）

平成24年度 渡辺 マルセロ（NPO Mixed Roots x ユース x ネット★こんぺいとう代表）
松本 里美（NPO シェイクハンズ代表）

（平成24年度は基盤研究(C)課題番号 24520461「在日(経験のある)ブラジル人高校生と大学生のアイデンティティと言葉の関係」(研究代表者 重松 由美)と共同開催)

平成25年度 Jorge Anzorena（SELAVIP 代表）

2) 海外調査

平成22年度 ブラジル・ウルグアイ（重松 由美）2011年2月13日～2月27日

アルゼンチン（西村 秀人）2011年3月9日～3月21日

平成23年度 ペルー（寺澤 宏美）2012年2月21日～3月13日

平成24年度 メキシコ（野内 遊）2013年3月1日～3月13日

平成25年度 ペルー（寺澤 宏美）2014年2月19日～3月6日(予定)

* 研究組織および各年度の交付額の詳細については中間報告書を参照。

「アルゼンチン音楽の国際性と地域性」

(2010年10月11日 名古屋市 Café Dufi 聞き取り・編集：西村秀人)

講師紹介：

カルロス・アギーレ(Carlos Aguirre)

1965年アルゼンチン・エントレリオス州セギ出身のピアノ&ギター奏者、歌手、作曲家。地域のフォルクローレと共にジャズ・フュージョン音楽にも従事し、1980年後半からプロとして音楽活動を開始する。その後ペルー、チリに拠点を移して活動していた時期もあり、さらにブラジル音楽やジャズなど幅広い音楽性を身に着ける。1990年代に友人たちと自主制作レーベル「シャグラダ・メドラ」を設立、パラナーやロサリオのミュージシャンにアルバム制作の機会を与え、同地の音楽シーンに大いに貢献した。2000年から自己のグループでも活動。2010年に単身初来日を果たし、2012年にはギタリストのキケ・シネシと共に全国を公演している。



foto: Masayo Tanimoto

聞き手：西村 秀人（名古屋大学国際開発研究科国際コミュニケーション専攻准教授）

*昨日のコンサートをお聞きにあった方もおられるかと思いますが¹、まず最初にアギーレさんがこのような音楽を演奏するもとなった、生まれた頃のことを少しお聞きしたいと思います。

Usted nació en 1965, dos años mayor que yo, en Seguí, ¿no? ¿Cómo era Seguí de entonces?

（あなたは1965年生まれ、つまり私より2つ年上ということになりますが、セギという場所のお生まれですね？ お生まれになった頃のセギはどんなところでしたか？）

（カルロス・アギーレ、以下CA）Era un pueblo muy pequeño, de 3,000 habitantes, mi casa, por ejemplo, ahora es la casa de mis padres, está a una cuadra del centro pero a una cuadra al campo.（セギはとても小さな村で、人口3000人ほどでした。例えば私の家は中心から1ブロックのところにはありましたが、もう1ブロックいけばもう野原でした。）Cuando yo era muy pequeño, no había agua potable, cada familia tenía un pozo. Y los avances del tiempo fueron consiguiéndose con el tiempo teniendo agua potable, teniendo carretera de asfalto... Muchos compañeros de la escuela primaria vivían en el campo, así que yo iba a hacer la tarea de la escuela a caballo de su casa.（私が小さかった時は飲める水道もいなくて、道路も舗装されていませんでした。それぞれの家が水のための井戸を持っていました。時が経って今は道路も舗装されて、水道もあります。小学校の同級生の多くは平原の方に住んでいたの、私が学校の課題をしに行くときは彼らの家から馬に乗っていったりしたものでした。）

Ya desde muy chico, tenía un mucho aprecio con la naturaleza, con los animales...（小さい頃から自然や動物に親しんで、そういったものにすごく惹かれてきました。）Tanto era así que cuando a mí me preguntaban por mi futuro, dije que yo quería trabajar con el animal.（あまりにも好きだったので、子供の頃どのような仕事に就きたいか訊かれれば、動物に関する仕事をしたいと答えていました。）

*¿Musicalmente cómo era?（音楽面ではどうでしたか？）

（CA）En la casa de mis padres se escucha ya mucha música de todo el mundo. Fundamentalmente o principalmente música clásica, música académica, mucho jazz, mucha música brasileña, mucho folklore rural, digamos, del campo.（私の両親の家には世界中のたくさんのお音楽がありました。基本的にはクラシックですが、ジャズもたくさんあったし、ブラジル音楽や地方のフォルクローレもたくさんありました。）Esas pequeñas vivencias que yo tenía, cuando iba a visitar un amigo a caballo hacían que alguna música que escucharon

¹ 講演会の前日、2010年10月10日、同じCafé Dufiでカルロス・アギーレ氏の一般向けのコンサートが行われた。

en mi casa resuenen muy especialmente. (馬に乗って友だちの家に行くようなこうしたさ
 さやかな生活の中で、私の家にあったいくつかの音楽は非常に特別なものに響きまし
 た。) Yo tendría cuatro o cinco años, se ven ocurría comprender muy profundamente los textos
 de las canciones, y había música que me emocionaron mucho entre las cuales, por ejemplo,
 Atahualpa Yupanqui, recuerdo así. (私は4歳か5歳でしたが、曲の歌詞をととても深く理解
 するようになって、その中にはアタウアルパ・ユパンキ²の曲のようにすごく感動した
 ものがあつたのを覚えています。) Con el tiempo, me emocionaron porque hablaba del
 paisaje que yo ya conocía desde niño. (その後時間が経ってから、私が感動したのは、私
 が子供の頃から知っている風景を歌っていたからだったのだとわかりました。) A los
 cinco años mis padres vieron que yo tenía mucho interés a la música, y me preguntaron si quería
 estudiar el instrumento. Yo no sé por qué, pero dije que quería estudiar piano.

(5歳の時、両親は私が音楽に関心があることに気がついて、楽器を勉強したいかと私
 に尋ねました。いまだになぜかはわからないのですが、私はピアノを弾きたいと答えま
 した。) Ya mi hermano que tenía siete años mayor que yo, ya tocaba la guitarra, así que en la
 casa había alguien que hacía música. Y bueno, tenía, cuando era muy muy pequeño, ya había
 algunos discos preferidos para dormir poniendo un par de temas. Esos discos curiosamente, eran
 de Elis Regina, de Brasil, o de Vinicius. (私には7歳年上の兄がいて、ギターを弾いてい
 たので、すでに音楽をやる人間は家にいたわけです。とても小さい時から寝るために聴
 くのを好んでいた数枚のレコードがありました。それらのレコードは、不思議なことに、
 ブラジルのエリス・レジーナ³のものだったり、ヴィニシウス・ヂ・モライス⁴のもので
 した。)

*Seguí es una parte de la provincia de Entre Ríos, ¿no? Es del llamado litoral argentino.
 Hablando de la música del litoral, es famoso chamamé o rasguido doble allí. ¿Ese tipo de
 música también ya escuchaba mucho? (セギはエントレリオス州の一部で、いわゆるリト
 ラル地方ですが、リトラル地方の音楽というとチャマメやラスギード・ドブレ⁵といっ
 たフォルクローレがありますが、そういう音楽にはどのように接していたのですか?)
 (CA) Sí. No tanto en mi casa, sino en el festival que hacían en mi pueblo. (私の家で聞くこと

² アタウアルパ・ユパンキ(Atahualpa Yupanqui, 1908-1992) : アルゼンチン・フォルクローレ
 を代表するギター奏者・歌手・作曲家。代表作に「牛車にゆられて」「トゥクマンの月」など。

³ エリス・レジーナ (Elis Regina, 1945-1982) : 1960~70年代のブラジルで高い人気を誇った
 歌手。

⁴ ヴィニシウス・ヂ・モライス (Vinicius De Moraes, 1913-1980) : 「イパネマの娘」を始め、ボ
 サノヴァ時代以降長く活動した作詞家・詩人。ギタリストと女性歌手とのコンビでショーを行い
 海外公演も多く、アルゼンチンでも高い人気を誇った。

⁵ チャマメ(Chamamé)、ラスギード・ドブレ(Rasguido Doble) : いずれもアルゼンチンのコリ
 エンテス州、エントレリオス州、サンタフェ州のリトラル地方に起源をもち広く親しまれている
 舞曲。

はあまりありませんでしたが、村のパーティなどではよく聞きました。) En ese momento tenía más difusión de la música folklórica argentina era la música del noroeste, de Tucumán, Salta, Mendoza, Santiago del Estero... (当時アルゼンチンのフォルクローレとしてより広く普及していたのは北西部、トゥクマン州、サルタ州やメンドーサ州、サンティアゴ・デル・エステーロ州などの音楽でした。)

*Fue también por la influencia de la radio, ¿no? (それはラジオの影響でもありますよね?)
(CA) Sí, Sí, la difusión masiva a través de la radio. (そうです。ラジオを通じて広く普及しました。)

*Entonces, usted escuchaba todo tipo de estas músicas diariamente. Y, para aprender tiene que empezar de la música clásica, ¿no? (当時はそのようにいろんな音楽を日常的に聞いていたということですが、ピアノの学習という点ではクラシックから始めなくてならなかったですね?)

(CA) Sí. Empecé a aprender con la profesora en mi pueblo, y a los catorce años me fui a vivir a Paraná. (そうです。地元の街の先生についてピアノを習い始め、14歳の時、パラナーへ移り住みました。) Pero ya a los once años empecé a aprender con una profesora de Paraná, Graciela Reca, viajé a estudiar todas las semanas. (でも11歳の時から、毎週通ってパラナーの先生であるグラシエラ・レカに習っていました。)

*En tu libro dice que Graciela era muy importante para su vida. (あなたの本の中ではこのグラシエラ・レカ先生がととてもあなたの人生にとって重要な人物だったと書かれていますね)

(CA) Sí, Graciela es una profesora muy importante de mi región, una persona con mucho amor al piano, mucho amor a la docencia. (グラシエラは私の地方でも大変重要な先生で、ピアノに対しても、教えることに対して、大きな愛を持った人でした。) Entonces tomar la decisión de estudiar con ella era saber que uno iba a tener que responder así una demanda muy importante. (当時彼女について勉強することを決心したのは、そのとても重要な熱意にこたえなくてはいけないと思ったからです。)

*Según un episodio que apareció en el libro, usted eligió el piano como su favorito más que fútbol, lo que resultaba que le extrañaban. (あなたの本に出てきたエピソードに、サッカーよりもピアノを好んだことで変に思われたという話がありましたね)

(CA) Sobre todo, eso sucedía en el pueblo de Seguí. No es exactamente que no jugaba, pero muchas veces mi padre veía que yo me quedaba dentro de la casa tocando el piano, y me enseñó que hay otro niño fuera por ir a jugar al fútbol, pero elegía el piano. (それはまだセギの時代の

話ですね。サッカーをしなかったわけではないけど、父は私が家にこもってピアノを弾いているのを見て、外でサッカーをしている子もいるよと言ってくれたことが何度もありましたが、でも私はピアノを選んでいました。) Cuando me fui a vivir en Paraná, encontré a muchos niños o muchos adolescentes de mi edad que también elegían a la música como juego. (その後パラナーに移った時には、私と同じように音楽を遊びとして選んだ多くの子どもたち、私と同じ年齢の少年たちに出会いました。) Y eso me hizo sentir un poco más acompañado, no tan solo. (それで孤独じゃなくて、同じ人がいるんだと少しは感じるようになりました。)

Luego entré en la universidad de música, seguí con la misma profesora que también daba clase. (その後、音楽大学に入り、そこで授業をしていた同じ先生にずっとついていました。)

*¿De dónde surgió tu interés a la música popular? (ポピュラー音楽への興味はどこから出てきたのですか?)

(CA) Lo que pasa que desde siempre, yo estudiaba con la profesora de música clásica, pero en mi casa también tocaba, escuchaba y trataba de escuchar la música popular y trataba de reproducir. (実際には、クラシック音楽の先生について勉強はしていましたが、自分の家ではいろんな音楽を聴いて、それを再現しようとしていたりしていました。) Sobre todo con mi hermano, mi hermano tocaba fundamentalmente la música popular. (特に兄と一緒に。兄は基本的にポピュラー音楽を演奏していたものですから。)

*Para ser músico profesional, ¿qué proceso había?

(CA) Eso se fue dando muy naturalmente, no sé en qué momento lo decidí, yo sé que, por ejemplo, yo me acordaba que a los 15 años ya integraba un grupo con mi hermano que tocaba la música brasileña. (それは非常に自然なことだったと思います。いつプロになる決心をしたかわかりませんが、でも例えば 15 歳の時にはもう兄と一緒にブラジル音楽のグループのメンバーになっていました。) Y tocábamos en los pueblos de la zona. (私たちは地域のいろんな街で演奏しました。)

*¿Y qué motivo sería importante para su vida musical después? (その後の音楽活動にとって重要になったことは何ですか?)

(CA) Después pasa algo tan importante para mí es como respirar así...una necesidad diaria de estar en contacto con la música, escuchando, estudiando... (その後何か特別重要なことがあったというよりは、何かいつも呼吸しているようなもので... 聴いたり勉強したりして音楽と接しているということはただ日常的な必要性でした。) Pero luego, con el tiempo, el concepto del estudio empezó a ser cada vez más amplio porque sentí que la música era el lenguaje, a través del cual solo podía expresar un montón de pensamientos, pero para buscar

esos pensamientos necesitaba otro tipo de la vivencia que no eran la vivencia de sí mismo. (でもその後時間を経て、音楽を勉強することの意味はますます大きくなっていきました、というのも私は音楽が言語そのものであると感じたからです。音楽を通じてものすごい種類の考え方を表現出来ます、でもその考え方を探するためには自分の生き方とは異なる生き方が必要になるのです。)

*A los 20 años, participaste en el Taller Latinoamericano de Música Popular en el Río de Janeiro, que era importante para ti también. (20歳の時、リオ・デ・ジャネイロで行われたラテンアメリカ・ポピュラー音楽ワークショップに参加されたことも重要だったのですね?)

(CA) En ese taller algunos docentes como Leo Masliah, Chico Buarque, Tato Taborda que es un compositor de música contemporánea. (そのワークショップにはレオ・マスリア⁶、シコ・ブアルキ⁷、現代音楽の作曲家であるタト・タボルダ⁸といった人が先生として参加していました。) Mauricio Maestro que es el arreglador del grupo vocal Boca Livre. (コーラス・グループのボカ・リヴリのアレンジャーであるマウリシオ・マエストロ⁹も参加していました。) Y en ese encuentro a que íbamos músicos de distintas partes de Latinoamérica, tuve la suerte de conocer a una persona que lo quiero mucho que se llama Jorge Fandermole. (このラテンアメリカのさまざまな場所から音楽家たちが集まったこの会で、私は大好きだったホルヘ・ファンデルモーレ¹⁰という人物と知り合う幸運にも恵まれました。)

*Es muy importante encontrar con Jorge, ¿no? (ホルヘとの出会いはとても重要だったのですよね?)

(CA) Sí, es una persona que yo admiro mucho, es un gran compositor y gran poeta. (そうです、ホルヘ・ファンデルモーレは私が非常に称賛する音楽家で、偉大な作曲家で詩人です。) Me ha sugerido mucho, muchos libros, mucha literatura para leer. (彼は私にたくさんの本をすすめてくれました。)

*Después su vínculo con Brasil sigue manteniendo, ¿no? (その後もブラジルとのつながりは続くのですよね?)

⁶ レオ・マスリア (Leo Masliah, 1954-) : ウルグアイ出身のピアノ奏者、歌手、作曲家、作家。1970年代からユーモアあふれる文学作品と音楽で知られる。アルゼンチンでも著名。

⁷ シコ・ブアルキ (Chico Buarque, 1944-) : 現代ブラジル音楽を代表する作曲家、歌手、小説家の一人。その知的な作風はアルゼンチンでも広く知られている。

⁸ タト・タボルダ (Tato Taborda, 1960-) : ブラジル・クリチーバ出身のピアノ奏者で現代音楽の作曲家。

⁹ マウリシオ・マエストロ (Mauricio Maestro, 1949-) : 1978年にコーラス・グループ「ボカ・リヴリ」を結成、その後もプロデューサーとして数多くの業績を残している。

¹⁰ ホルヘ・ファンデルモーレ (Jorge Fandermole, 1956-) : 1983年からソロ活動を続けるアルゼンチン・サンタフェ州出身のシンガーソングライター。

(CA) Desde que era niño, me dormía con esos discos de Elis Regina, el vínculo con Brasil, con razón, sí, siempre estuvo abierto pero a partir de ese viaje en el Río, comenzaron viajes esporádicos y conoce músicos. (子供の頃から子守歌だったエリス・レジーナのレコードに始まり、いつもブラジルと接点を持ってきたのは当然で、いつも開かれていました。でもリオ・デ・ジャネイロへの旅のあと、ブラジルへの自発的な旅が始まり、さらにいろいろな音楽家と知り合ったのです。) Pero mi vínculo más estrecho es desde el año 2000, a través de un gran festival que se llama La Feria de Bahía, donde tuve el vínculo con Benjamim Taubkin. (そして私のブラジルとのつながりがより強くなったのはバイーアの見本市があった 2000 年からです。そこでベンジャミン・タウブキン¹¹とつながりました。) Benjamín viajó a Argentina para escuchar músicas, se llevó discos y visitó varios lugares, y a tiempo recibí la invitación para ir con mi grupo a tocar en Bahía. (ベンジャミンはアルゼンチンを旅して、音楽を聴き、CD を持って帰り、いろんな場所を訪れました。その後少しして私は彼からバイーアで私のグループと一緒に演奏するように招待してくれました。) A partir de ese viaje surgió un vínculo más estrecho con Benjamín y empecé a viajar mucho por distintos proyectos que se está ocurriendo a nosotros a San Pablo donde vive Benjamín. (そのツアー以来、ベンジャミンとより強いつながりが生まれて、さまざまなプロジェクトでブラジルをよく旅することになりました。ベンジャミンが住んでいるサン・パウロにはよく行きました。)

*¿Cómo surgió el vínculo con Chile y Perú? (他にチリやペルーで活動されてますが、そのきっかけはどのようなものですか?)

(CA) En el año 90, armamos un proyecto con Lucho González, el guitarrista peruano. (1990 年にペルー人ギタリストのルーチョ・ゴンサレス¹²とプロジェクトを立ち上げました。) En esa época Lucho vivía en Argentina y en el momento Lucho recibe una propuesta de Lima para dirigir un estudio de grabación donde grabarían varios discos de música peruana. (当時ルーチョはアルゼンチンに住んでいたのですが、その時リマのペルーで、録音スタジオを管理しないかという提案を受けていました。)

Entonces Lucho me ofreció a ser asistente y nos fuimos a vivir en Lima, en mi caso un año y Lucho se quedó. (そこでルーチョは私に助手になるよう申し出てくれ、私たちはリマに行くことになり、私は 1 年間過ごし、ルーチョはそのままりマに残っています。) Más allá del trabajo que yo hacía en el estudio, para mí fue como una escuela donde en que aprender a tocar música peruana tocando con muchos músicos que yo había escuchado en los discos. (そのスタジオで行った仕事以外でも、私にとってはペルー音楽を学ぶ学校のように、それ

¹¹ ベンジャミン・タウブキン (Benjamim Taubkin, 1956-): ブラジル・サンパウロ出身のピアノ奏者、作曲家、編曲家。

¹² ルーチョ・ゴンサレス (Lucho González, 1946-): ペルー出身のギター奏者で、1970 年代から長くアルゼンチンで活動、メルセデス・ソーサを始め多くの有名アーティストと共演している。

まで録音で聞いてきた数多くの音楽家と一緒に演奏しました。) Bueno, surgiendo muchos vínculos con distintos músicos peruanos, lo que hizo que yo al regresar a mi Paraná, Argentina, ni siquiera viajar durante muchos años por Perú para tocar con ellos, los músicos peruanos venían a tocar en Paraná. (この時さまざまなペルー人音楽家とつながりが出来たことで、私がアルゼンチンのパラナーに帰ってから、何年もの間ペルーを訪れることがなくても、ペルー人音楽がパラナーに演奏に来るようになりました。) Vamos a escuchar un poco la grabación de 1990, y hago la aclaración que el sonido del instrumento es un poco viejo. (ここでルーチョ・ゴンサレスとカルロス・アギーレの1990年録音を聞いてみましょう。一つお断りしてきますが、楽器のサウンドは今だといくぶん古い感じがすると思います。)

<”Presintiendo”「予感しながら」を聞く>

*Es una música de tipo “Jazz-Fusión”, ¿no? Te gusta también jazz o fusión. (これはいわゆるジャズ=フュージョン系の音楽ですね？ ジャズやフュージョンといった音楽もお好きなんですよ？)

(CA) Sí, para el año 90, yo escuchaba mucho otra música también, en esa época había un grupo que me gustaba mucho y me gusta todavía que es Yellow Jackets estadounidense, Hermeto Pascoal, Opa, trío de Uruguay de Hugo Fattoruso. (1990年頃、私は他の音楽もよく聞いていて、当時はイエロージャケッツというバンドが大好きだった、というか今も好きです。あとエルメート・パスコアル¹³とか、ウーゴ・ファトルーソ¹⁴が参加していたトリオのオパとかも。)

*Y después nació el vínculo con Chile. (そしてその後チリとのつながりも出来たのですよね？)

(CA) Cuando estaba viviendo en Lima, vino de visita un contrabajista peruano llamado Enrique Luna que vivía en Chile. (私がリマに住んでいた頃、チリに住んでいるペルー人コントラバス奏者であるエンリケ・ルナが私を訪ねてきました。) Me invitó Luna cuando volviera a Argentina pasara a su casa y así hice un momento especial de Chile. (ルナはアルゼンチンに帰る時には私の家に寄って行ってくれ、それでチリにおける特別な機会を得たのでした。) Porque era el comienzo de la democracia después de muchos años de la dictadura de Pinochet. (特別というのはチリの長年にわたるピノチェト独裁が終わり、民主主義が始まった時だったからです。) El día que yo llegué se hacía un recital muy importante de Silvio

¹³ エルメート・パスコアル (Hermeto Pascoal, 1936-) : ブラジル・アラゴアス州出身のマルチインストゥルメンタリスト。独自の音楽性で世界的に高い評価を受けている。

¹⁴ ウーゴ・ファトルーソ(Hugo Fattoruso, 1943-) : ウルグアイのピアノ奏者、アコーディオン奏者、作曲家。ロス・シェイカーズ、オパなど多様な活動で知られ、アメリカ、ブラジルでも長く活動。近年はレイ・タンボール、ドス・オリエンタレスなどでたびたび来日。

Rodríguez con músicos del grupo Irakere en el estadio nacional. (私がチリに到着した日に、グループ・イラケレ¹⁵のミュージシャンとシルビオ・ロドリゲス¹⁶によるとても重要な意味を持つリサイタルがナショナル・スタジアムで行われたのです。) Entonces era un concierto muy especial para todo el pueblo chileno porque se re-abría ese país que lo había cerrado desde hace muchos años. (そのコンサートはチリの全ての人々にとって特別なものでした、それは何年も前から閉じられていたキューバとの関係を再び開くものだったからです。) Mi visita a este amigo peruano se extendió por varios meses, porque fui conociendo a muchos músicos, fui integrándome distintos grupos de música. (そのペルー人の友人を訪ねた私のチリへの旅は数カ月に延びました。というのはその後多くの音楽家たちと知り合い、さまざまなグループのメンバーとして活動することになったからです。) Y sobre todo, estoy muy contento de poder participar de ese momento histórico de ese país. (とりわけ、私はチリの歴史的な瞬間に立ち会えたことをとてもうれしく思っています。)

*Y sigue trabajando con los músicos de Chile ahora también. (そして今もチリのミュージシャンとは交流がありますね。)

(CA) Sí, a partir de ese viaje, volví todos los años, a veces cinco veces por año, o quedaba varios meses allí. (その旅以降、毎年訪れていますし、年に5回訪れた時や、数カ月滞在したこともありました。) Y después fui encontrando a los músicos de gemelos de Chile, los músicos que trabajan en la misma línea recuperando los rasgos de la música folklórica. (そして次第にチリにおける私の双子、つまりフォルクローレのさまざまな特徴を取り入れながら同じラインの音楽をやっているミュージシャンに出会っていったのです。) No fue una tarea muy fácil para mí, porque en Chile cuando recién comenzaba la democracia, había muchos festivales de jazz, pero había muy poco espacio para el propio músico chileno. (この作業は私にとってたやすいことではありませんでした、というのは民主主義が始まったばかりのチリでは、ジャズのフェスティバルは多数行われていましたが、地元チリの音楽家のためのスペースは非常に少なかったからです。) Entonces tuve que ir muchas veces para ir conociendo muy de poco a algún músico. (そこで私が少しずつそういったミュージシャンと知り合うためには何度も足を運ばなくてはならなかったのです。)

*¿Cómo se encontró con Francesca? (フランチェスカ・アンカローラ¹⁷とはどのように出会ったんですか?)

(CA) Uno de los primeros músicos en realidad que conocí en Chile fue Antonio Restucci que es

¹⁵ グルーポ・イラケレ (Grupo Irakere) : 1973年、ピアノ奏者のチューチョ・バルデスが結成したキューバを代表するジャズ=フュージョンバンド。早くから海外でも評価された。

¹⁶ シルビオ・ロドリゲス (Silvio Rodríguez, 1946-) : キューバのヌエバ・トロバを代表するシンガーソングライター。その独自の現代的な作風は中南米全域で高い人気を持っている。

¹⁷ フランチェスカ・アンカローラ (Francesca Ancarola, 1971-) : チリ出身のジャズ歌手。

compositor, guitarrista y mandolinista. (私が実際に最初期に知り合ったチリの音楽家の一人に、作曲家・ギタリスト・マンドリン奏者のアントニオ・レストウッチ¹⁸がいました。) Y a través de los años conocí a esta cantante a quien quiso presentar. (その後何年か経ってレストウッチが紹介したいと言ってフランチェスカと知り合いました。) A mí me encantó su forma de cantar el primer día que conocí, yo venía pensando en hacer un disco de canciones de cuna de distintos países de Latinoamérica, pero hasta ese momento no tenía una persona con quien produzca. (私は最初に知り合った日に彼女の歌い方が大変気に入り、ラテンアメリカのさまざまな国の子守歌のアルバムを作るという考えに至りました。でもその時はそれを制作してくれる人がいませんでした。) Y en la realidad es el primer álbum de una serie de discos que queremos hacer con Francesca porque ahí había varios países que no están. (このアルバム¹⁹はフランチェスカと制作したい一連のアルバムの最初のもので、というのはまたここに含まれていない国の子守歌もあるのです。) Hay canciones muy hermosas, con el criterio con el que elegimos la canción de ese disco fue buscar un autor muy representativo de cada país, y sobre todo que hablen un poco de la realidad del país. (このアルバムにはとても美しい歌があります。このアルバムの我々の選曲の基準はそれぞれの国を代表する作曲家の作品、その中でも特にその国の現実を少しでも反映させた作品を探しました。) Nosotros decimos con Francesca que es un disco para dormir a los niños pero para despertar a los padres. (だから私とフランチェスカはこのアルバムは子供を寝かしつけるためのものでもあるけど、両親を目覚めさせるものであると言っています。)

<ここでアルバムの1曲目 “Gurisito”を聞く>

(CA) Gurisito es un niño chiquito, una canción de Daniel Viglietti, de Uruguay. (グリシートとは小さな男の子とです。ウルグアイのダニエル・ビリエッティ²⁰の作品です。) Esa música es un tipo de música de candombe. (この曲はカンドンベ²¹の一種です。)

*En Argentina, había una época de dictadura militar, en tu caso ¿cómo pasaba esa época? (アルゼンチンでも軍事政権を経験されていると思いますが、当時はどのように過ごされていた

¹⁸ アントニオ・レストウッチ (Antonio Restucci, 1956-) : チリ出身のギター奏者、マンドリン奏者。ジャズ、ブルーグラス、フラメンコなど多様な音楽を吸収、チリにおけるフュージョンの先駆者。

¹⁹ CD “Arrullos” (Shagrada Medra)

²⁰ ダニエル・ビリエッティ (Daniel Viglietti, 1939-) : ウルグアイの新しい歌を代表するシンガーソングライター。その作品「鉄条網を切れ」(A desalambrar)は軍事政権に抵抗する時代を象徴する代表的な曲となった。

²¹ カンドンベ (candombe) : ウルグアイ・モンテビデオのアフリカ系住民の宗教儀式にルーツを持つ、3本の太鼓のアンサンブルによって生み出されるリズム名であり、そのダンスの名称。1830年代からカーニバルに取り入れられ、名物となっている。

ましたか?)

(CA) En esa etapa, yo estaba en la secundaria. A pesar de que estaba prohibido, nosotros estábamos en la escuela, lo que se llama centro de estudiantes, un espacio de fusión entre estudiantes, y publicábamos un semanal de noticias. (その時代、私は中学～高校に行っていました。禁止されていましたが、我々は小学校に集まって、そこを「学生センター」と呼んでいました。そこは学生間の交流の場で、我々は週刊で新聞を発行していました。) Pero fue una etapa muy dura, digamos, se desarticuló la red social. (しかしとても厳しい時代であり、いわば社会間のつながりが断たれた時代でした。) Parecía que la sensación que uno tenía que era un país no tenía historia, no se conocía lo que había detrás de lo que uno estaba viviendo. (まるで歴史のない国にいるようでした、自分が生きているその背景に何があるのか知ることがありませんでした。) Muchos artistas estaban prohibidos, entonces no se pasaban sus composiciones por la radio y por la televisión y uno no tenía acceso, bueno, justamente eso es el pilar de cazadero argentino. (多くのアーティストが禁止され、その人々の作品はラジオやテレビで流れなくなり、誰もそうした作品にアクセスできなくなりました。それはアルゼンチンの赤狩りの中心的手法でした。) Yo terminé la escuela secundaria en el momento que comenzaba la democracia. (私が高校を終えた時ちょうど民政に復帰しました。) Y ahí fueron mucho años de recuperar esa trama, y de historial, como ir hacia atrás, otra vez para poder constituirse un país. (そしてその陰謀から回復するには何年もの歳月が必要でした、再び国を構築していくために歴史的、つまり過去にさかのぼることも必要でした。)

*Escuchando sus discos, nos dimos cuenta de que hubo un cambio en su música, ya que en el 90 hacía mucho jazz y fisión, pero ahora está más inclinado a la música litoraleña. Ese cambio es una cosa natural o algún intento, ¿Qué opinas sobre esto? (あなたのアルバムを聴いていると、あなたの音楽に変化があったことに気づきます。90年は非常にジャズとフュージョン的だが、今はよりリトラル音楽寄りです。この点についてはどう思われますか?) Tiene que ver con ese mismo que te decía sobre la dictadura. Yo mismo era una persona que no tiene tanta información sobre lo que había pasado antes, entonces con el tiempo fue estudiando y fui viajando por los lugares donde hacían esas músicas y recopilando la formación y hasta poder tener un vínculo más estrecho donde la música nace. (このことは先ほど軍政について言ったのと同じことが言えると思います。私自身、昔に何があったのかについてあまり情報を持っていなかったが、その後時間とともに勉強し、それら音楽が作られている場所を旅し、形式を写しとり、その音楽とより近いつながりを持つことが出来たのだと思います。) Hubo una cantante que se llama María Silva, que es una cantante de mi ciudad, de Paraná, ella había vivido muchos años en Buenos Aires y había conocido muchos músicos más importantes del folklore, y estaba regresando Paraná, y yo acompañaba algunos años, y ella me

presentó y me hizo conocer a muchos músicos muy importantes como Chacho Muller del Litoral. (私の街パラナー出身の歌手でマリア・シルバという人がいました。彼女は長年ブエノスアイレスに暮らし、フォルクローレの重要な音楽家と多数知り合いでした。その後彼女はパラナーに戻ってきて、私は彼女を数年間伴奏したのですが、チャチョ・ムリエール²²など私に多くの重要な音楽家を紹介し、教えてくれました。) Y muchos años después, tuve la inmensa alegría de que me convoque para hacer un arreglo del disco que recorría la gran parte de la obra de Chacho Muller. (それから何年も後、私はチャチョ・ムリエールの作品の多くを網羅したアルバムのアレンジをするよう要請され、非常に嬉しかったことがありました。)

*¿Para qué fundó su propio sello Shagrada Medra? (なぜご自身のレーベル、シャグラダ・メドラを作られたのですか?)

(CA) El sello surge en el año 90. Con dos amigos siempre pensábamos porque no teníamos acceso a grabar un disco porque nosotros enviábamos nuestra música a los distintos sellos de Buenos Aires y no recibimos respuesta. (レーベルを作ったのは1990年でした。二人の友人といつもそのことを考えていたのです。というのは我々の音楽をブエノスアイレスのさまざまなレーベルに送っていたのですが、返事がなく、我々はアルバムを録音し発売することが出来ないでいたからです。) Entonces hicimos aprender, empezar a crear el sello propio. Los amigos son Luis Barbiero, flautista y compositor de Paraná, y Ramiro Gallo, violinista y compositor. (そこで学んで自分たちのレーベルを作ることを始めました。一緒に作った二人の友人とはフルート奏者で作曲家のルイス・バルビエロ²³とバイオリン奏者で作編曲家のラミーロ・ガジヨ²⁴です。) Estábamos los tres en el proyecto, y empezamos grabando en el formato de cassette, la primera edición de ese formato, bueno, uno de los primeros discos fue “Barrio tranquilo” por el trío de tango que conformaban Ramiro Gallo en el violín, Luis Barbiero en la flauta y Martín Vázquez en la guitarra. (3人でプロジェクトをはじめ、初めはカセットの形で制作していました。そのスタイルでの最初のアルバム、いや最初のうちの一つに「バリオ・トランキーロ」(静かな街)があります。これはラミーロ・ガジヨ(バイオリン)、ルイス・バルビエロ(フルート)、マルティン・バスケス(ギター)のタンゴ・トリオによるものです。) Era una forma de ir aprendiendo como podíamos hacer y editar nuestro disco cuando los hicimos varias veces, nos dimos cuenta de que podíamos

²² チャチョ・ムリエール (Chacho Muller, 1929-2000): アルゼンチン・ロサリオ出身の作曲家、ピアノ奏者、ギター奏者。フォルクローレの分野で特に地元で高く評価されている。

²³ ルイス・バルビエロ (Luis Barbiero, 1966-): アルゼンチン・パラナー出身のフルート奏者。交響楽団で活躍する傍ら、ジャズ、フォルクローレ、ブラジル音楽などのグループでも活動。

²⁴ ラミーロ・ガジヨ (Ramiro Gallo, 1966-): アルゼンチン・サンタフェ州出身のバイオリン奏者、作曲家。「エル・アランケ」に参加した後、自己の五重奏団で活躍。現代の最も優れた作曲家の一人。

colaborar muchos músicos de la región, y empezaron a sumarse al catálogo de la Shagrada Medra muchos músicos de Paraná, de Córdoba y de Rosario. (これによって我々は自分たちのアルバムをどうやって作って発売するかを学んでいきました。何度かやっていくうちに、地域の多くの音楽家たちと協力していけることに気づき、シャグラダ・メドラのカタログに数多くのパラナー、コルドバ、ロサリオのミュージシャンが加わっていきました。) Actualmente el sello tiene distintas líneas como una serie de guitarras que son distintos guitarristas de la parte de país. (現在レーベルにはさまざまなラインナップがあり、その一つがアルゼンチンのさまざまな地域のギタリストによる「ギター・シリーズ」があります。) En esta serie de guitarra, por ejemplo, hay una guarda está tejida por una artista plástica y cada diseño obedece a etnias de que han vivido en la región donde el artista había nacido. (このギターのシリーズには、例えばこのアルバムのように、造形芸術家によって編まれたお守りが入っています。それぞれがその演奏家が生まれた地域に暮らしてきた民族に属するデザインを持っています。) Porque, justamente hablamos con una artista plástica, que había recorrido y visitaba a estos tribúes, y había aprendido de tejido en varios colores. (というのはちょうど、これらの民族のいる場所を訪ねて回り、様々な色の織物を学んできた造形芸術家の女性アーティストと話しをしたところだったのです。)

*También en otros discos siempre tiene algo original hecho a mano, ¿no? (他のアルバムにもいつもこうしたオリジナルな手づくりの装丁がなされていますよね?)

(CA) Sí, nos gusta mucho una factura manual, muchos discos en vez de hacerlos seriadados, lo hacemos con una pista plástica, que pinta cada uno de los discos, en mi caso de disco crema, reciente edición japonesa. (そうですね。我々は手づくりのものが大好きで、多くのアルバムはデザインをシリーズ化する代わりに、小さなカードをつけました。最近日本でも発売された私のアルバム「クレマ」の場合には、それをアルバム1枚1枚に手書きしてつけています。)

*¿Esto también significa alguna resistencia al producto masivo? (それは大量生産への抵抗という意味合いもあるのでしょうか?)

(CA) Sí, una forma de expresar nuestra manera de ver del mundo también, como uno quisiera que sucedan las cosas. (はい、これは我々の世界の見方の表現方法の一つであり、他でも同じことが起こってくれるといいなと思っています。) Bueno, nos gusta que el disco o el CD como una obra integral donde la imagen y la música. (我々はアルバムをイメージと音楽の統合された作品として考えたいと思っています。) En el sello también hay una serie de cantautores, compositores de canciones donde está Jorge Fandermole, Aníbal Sampayo y Coqui Ortiz, compositor de Chaco, Luz de Agua, que es un proyecto que tiene por el eje la musicalización de un poeta que se llamó Juan L.Ortiz. (レーベルには、シンガーソングライ

ターのシリーズもあり、そこにはホルヘ・ファンデルモーレ、アニバル・サンパージョ²⁵、チャコの作曲家であるコキ・オルティス²⁶、フアン・L. オルティスの詩を音楽化することを軸にしたプロジェクトであるルス・デ・アグアなどが含まれています。)

También estamos comenzando una serie de pianistas que están grabando en este momento varios pianistas de distintos lugares del país. (今ピアニストのシリーズも開始しており、アルゼンチンのさまざまな地域のピアニストたちが録音しているところです。) Se editó en el momento un grupo de Rock a sucesión litoraleña. (リトラルの伝統を受け継いだロックのグループも発売したことがあります。) No parecía muy buen tratamiento como hacían musicalmente, pero también parecía bueno que hablara de cuidado al medio ambiente, la mayoría de los temas hablaba sobre el río Paraná, sus problemas. (音楽的にはいいやり方だとは思えないかもしれませんが、彼らは環境保護について語っていて、大半のテーマはパラナー川とその問題について言及しています。)

*¿Qué opinas sobre la situación actual de la música argentina? (アルゼンチン音楽の現状についてはどのようにお考えですか?)

(CA) Felizmente pienso que hay muchos compositores e intérpretes que están haciendo muy profundos trabajos. (幸い今はとても深い仕事をしている作曲家と演奏家がたくさんいると考えています。) Si bien todavía no se puede hablar de movimientos formales, se puede pensar que en el futuro va a tener un cuerpo de movimiento. (今は目に見えるような形での運動のようなものについて語ることはまだ出来ないが、近い将来具体的な運動という形で何かあらわれてくると考えます。) Tenemos.... no se podían dar algún nombre, pienso. (すでにあるのですが、何らかの名前を付けることは出来ない、そう考えています。) De la gente muy joven, Juan Quintero, que es un compositor que tiene toda la tradición folklórica pero también tiene una apertura a la música moderna. (非常に若い世代の中では、すべてのフォルクローレの伝統を持ちながら、かつ現代にも開かれた音楽性をもっているフアン・キンテーロ²⁷が挙げられます。) Bueno, otro es Coqui Ortiz, compositor basado más que nada a la música del litoral, chamamé o rasguido doble. (それから、チャマメやラスギード・ドブレといったリトラル音楽だけに基づいた作曲家であるコキ・オルティスもいます。) Pianista como Lilián Saba, Nora Sarmoria, Diego Schissi... Schissi es un exquisito compositor.

²⁵ アニバル・サンパージョ (Aníbal Sampayo, 1926-2007) : ウルグアイ・パイサンドゥー出身のギター奏者、アルパ奏者、歌手、作曲家。新しい歌の代表的作曲家でもあり、1972年軍事政権に逮捕され、9年間収監された経験を持つ。晩年はスイスとウルグアイを行き来しながら活動を続けた。

²⁶ コキ・オルティス (Coqui Ortiz, 1972-) : アルゼンチン・チャコ州出身の歌手、ギター奏者、作曲家。1991年からソロ活動を開始、新世代のリトラル音楽を代表する一人。

²⁷ フアン・キンテーロ (Juan Quintero, 1977-) : アルゼンチン・トゥクマン州出身のギター奏者、歌手。ソロ活動の他、1999年に結成したアカ・セカ・トリオでも高い人気を持つ。

(ピアニストでは、リリアン・サバ²⁸、ノラ・サルモリア²⁹、ディエゴ・スキッシ³⁰がおり、特にスキッシは優れた作曲家でもあります。) En el caso de la música urbana, Ramilo Gallo, un compositor muy importante, mismo que Diego Schissi y también Nicolás Ledesma. (都会音楽ということであればディエゴ・スキッシ同様ラミーロ・ガジョも重要な作曲家といえるし、ニコラス・レデスマ³¹もいます。) Y después otras expresiones que para mí son también silencio, por ejemplo, músicos que están dentro de la música de jazz, son para mí lecturas la parte argentina de esa música, una forma de entender esa música, pero de giros argentinos. (あと、静かだがその他の表現として、例えばジャズの分野にいる音楽家たちは私にとって参照すべき知識になっています。特にジャズのアルゼンチン的な側面、ジャズのアルゼンチン式展開といった部分です。) De ahí, por ejemplo, para mí uno de los músicos más importantes es Juan Carlos Fontana, “Mono” Fontana, que es uno de los músicos más importantes de la música argentina. (例えばその分野で私にとって最も重要な音楽家の一人がモノ・フォンタナことフアン・カルロス・フォンタナ³²です。彼はアルゼンチン音楽における最重要人物の一人でもあると思います。) Y Ernesto Jodos, también Hernán Jacinto, más pequeño de edad pero gran pianista. (それからエルネスト・ホドス³³、年齢は若いけどエルナン・ハシント³⁴も素晴らしいピアニストです。)

*¿Cómo se hace la letra de las canciones? (作詞はどのようにしているのですか?)

(CA) Tal vez, a los 17 años más o menos, comencé a componer música, no mucho tiempo después, empecé a escribir, a intentos, poesía, pero no pensando que fuera música, otro canal de expresión. (たぶん17歳ぐらいのことだったと思いますが、作曲を始めました。その後ほどなく試みとして詩を書き始めます。でもそれは音楽をつけるつもりはなく、別の表現方法として考えていました。) Ese canal de expresión siguió también su propio camino y

²⁸ リリアン・サバ(Lilián Saba, 1961-): アルゼンチン・ブエノスアイレス州出身のピアノ奏者。1993年に自己の最初のアルバムを発表、以後も幅広い活躍で知られる。

²⁹ ノラ・サルモリア(Nora Sarmoria, 1968-): アルゼンチン・ブエノスアイレス出身のピアノ奏者。多彩な音楽性で知られ、そのアルバムは内外で高い評価を受けている。

³⁰ ディエゴ・スキッシ(Diego Schissi, 1969-) アルゼンチン・ブエノスアイレス出身のピアノ奏者。

ジャズ畑を中心に活躍したのち、タンゴの分野に進出、彼のキンテートは現代タンゴ最良のグループの一つに数えられる。

³¹ ニコラス・レデスマ(Nicolás Ledesma, 1965-): 現代タンゴ界を代表するピアニストの一人。レオポルド・フェデリコ楽団のピアノを務める傍ら、自己の楽団でも活動、2012年には日本全国で公演を行った。

³² モノ・フォンタナ(Mono Fontana, 1959-): アルゼンチン・ブエノスアイレス出身のマルチ・キーボード奏者。10代からアルゼンチン・ロックの有名バンドで活躍、自己のアルバムでは高い音楽性が広く評価されている。

³³ エルネスト・ホドス(Ernesto Jodos, 1973-): アルゼンチン・ブエノスアイレス出身のピアノ奏者。主にジャズ畑で活躍し高い評価を受けている。

³⁴ エルナン・ハシント(Hernán Jacinto, 1981-): アルゼンチン・ブエノスアイレス出身のピアノ奏者。ロックやジャズを中心に幅広く活躍している。

sin ánimo de publicar esas cosas, sigo queriendo relatos o cuentos. (この表現方法はずっと続けましたが、発表する気はありませんでした。ただ物語が好きであり続けただけでした。) Y hay momentos de estas dos canales se cruzan, disfruto muchísimo la agitación de una canción, a veces una gestación de una canción tiene años, cuatro o cinco años, porque no quiero apurarme, a veces siento que hay palabras que no son correctas. (そしてその2つの表現方法が交差する時期が来ました。私は一つの歌が出来ていくそのざわめきを大いに楽しんでいます。時として一つの歌が生まれるまでに数年、4~5年要することもあります。私は急ぎたくないし、その言葉では正しくないと感じることも多いのです。) Por ejemplo, “Pasarero” que es una canción la he tocado aquí, es un proceso de cuatro años. Y así con otra canción alguna ocho años, no tengo apuro sin terminar me gusta disfrutar de ese momento. Hay momento de mucha emoción, incluso soledad por fin encontrar esas palabras. (例えば昨日このコンサートでも演奏した曲「パサレーロ」は4年かかりました。そんな風にして他の曲では8年かかったものもありました。私は急がないし、そのプロセスを楽しんでいるのです。最後にこれだという言葉を見つけた時にはそれまでの孤独感も含めて大きな感動があります。) Siento que cada vez me cuesta más terminar una canción. Pienso que tanto en completar con la música, cuando una persona decide que ha terminado una canción en realidad es como abandonar un proceso que podría seguir toda la vida. (一つの歌を作り終えるということは私にはますます時間のかかることになってきています。音楽をつけることも同じぐらい大変です。ある人が実際に一つの歌を作り終える決心をするということは、一生続けられるかもしれないプロセスを放棄することでもあるのです。)

Una cosita para agregar. Gracias a la música, he tenido la suerte de viajar mucho por mi país y conocer muchos músicos que probablemente con el tiempo se empiecen a conocer. Son los músicos que viven en el sitio muy pequeño al borde de la difusión, no llega. (最後に一つ付け加えておきます。音楽に感謝します。音楽によって私は自分の国をたくさん旅することが出来て、多くの音楽家と知り合うことが出来、彼らも時間と共に知りあうことになるでしょう。彼らはとても小さな地域に住んでいて、マスメディアの周縁にいる人たちなのです。)

<フロアからの質疑・応答>

*En la grabación antes escuchado del 1990, ¿qué piano usabas? (先ほど聞いた古い録音で使っていたピアノのモデルは何でしょうか?)

(CA) Es piano de Korg, piano eléctrico. Por eso antes dije “viejo sonido”. (コルグの電子ピアノです。だから先ほど「古い音」と言ったのです。) Actualmente profiero grabar el piano de verdad. (現在は本物のピアノで録音することを好みます。)

*Hay un director ruso de película llamado Andrei Tarkovsky, y me gusta su película “Nostalgia” donde se usaba el sonido del agua muy efectivamente. Desde ese momento me interesa siempre el sonido del agua y he escuchado varias grabaciones in situ o arte de sonido, pero no hay otro como el sonido de combinación que usó en su primer álbum. El sonido de la guitarra o del piano de su álbum no equivale a otro. ¿Cómo realiza la grabación de estos instrumentos?

(ロシアの映画監督でアンドレイ・タルコフスキーという方がおられて、その人の「ノスタルジア」という映画が好きなんです、その中で水の音がすごく効果的に使われていて、その映画を見て以来水の音にすごく興味を持って、フィールド・レコーディングやサウンドアートなどいろいろな音を聞いたんですけど、アギーレさんがファースト・アルバムでやっているピアノと水の対比は他にないものだと思います。不思議なのはピアノの音もギターの音もアギーレ・グループでしか聞けないもののように思えるのですが、録音とかどのようにされているのでしょうか?)

(CA) En el caso del piano, siempre me gustaron las grabaciones que venían del sello que se llama ECM, sello que graba Egberto Gismonti, y siempre me gustó el sonido del piano en ese sello. Entonces busqué por internet si había alguna entrevista de técnico de sonido de ese sello. Junto con el técnico que yo trabajo en una mezcla de los discos encontramos una entrevista. La toma del piano era muy sencilla. Era así, dos micrófonos en esta posición. Modelo de AKG 414. La cuestión es la distancia al piano. Hay una tendencia a poner los micrófonos muy cerca del piano, pero hay muchas cosas que suceden fuera del piano, en el aire, entonces una toma pensaba si está cerca se pierde todas esas cosas que suceden más lejos. Entonces la idea fue poner los micrófonos a una distancia, por otra parte la referencia que uno tiene sin ninguna persona mete la cabeza dentro del piano. Y otros dos micrófonos a una distancia de un metro y medio o dos tomando la referencia de la sala. Me gusta grabar en los teatros, más que en el estudio. (ピアノについて言えば、私はいつもエグベルト・ジスモンチ³⁵などが録音している ECM レーベルの録音、ピアノの音が大好きだった。そこで私はインターネッ

³⁵ エグベルト・ジスモンチ(Egberto Gismonti, 1947-) : ブラジル・リオデジャネイロ州出身のマルチインストゥルメンタリスト。クラシックとポピュラーの垣根を超越した独自の音楽性を持つ。

トでそのレーベルの技術者のインタビュー記事がないか探したんだ。私がいつもミキシングなどで一緒に仕事をしている技術者と一緒に探してインタビューを見つけることが出来たんだ。ピアノの録音法はすごくシンプルなものだった。2本のマイクをこのポジションに置くだけ。マイクはAKG 414モデルだった。問題はピアノとマイクの距離だ。マイクを非常にピアノの近くに置く傾向があるが、ピアノから離れたところ、空中でもいろいろな音が生じている。だから近くで音を録れば、より遠くで発生するそういう響きはすべて失われてしまうのだ。そこで考えとしてはマイクを一定の距離をもって置くということ、逆に言えばピアノの中に頭を突っ込んで聞く人はいないわけなので。部屋の大きさにも配慮しつつ、他の2本のマイクは1.5~2メートルほどの距離に置きます。私はスタジオよりもホールで録音する方が好きです。)

* En las portadas de sus álbums no tienen ni título del álbum. Eso me hace una imaginación libre. ¿Por qué hizo así? (あなたのアルバムにはタイトル名が書いていません。非常にイメージーションを掻き立てていて良いと思うのですが、あえてそのようにした理由を教えてください。)

(CA) El disco crema fue el primero, fue que inició esa modalidad. Yo sentía que el grupo de canciones y composiciones que integraban ese disco tenían ese color. (「クレマ」(クリーム色)がそのやり方を始めた最初のアルバムです。私はこのアルバムを構成する一連の歌や曲がその色(クリーム色)を持っていると感じたのです。) Una percepción muy personal, para otra persona tenga otro color. (これは大変個人的な感じ方であって、他に人にとっては別の色かもしれない。) Pero yo sentía que era el primer disco mío, digamos con mi firma, yo sentía que como una primera aproximación al paisaje que yo veo todo los días. Yo escribía el paisaje pero desde la contemplación no desde habitarlo. (でもこれが私の最初のアルバム、私の名義の最初のものであり、つまり私が毎日見ている風景に初めて接近したように感じたものです。私は風景を描いていますが、住んでいる場所からではない所から眺めた風景なのです。) El segundo disco era rojo, en un disco que tiene está pensado de los problemas de las personas que habitan ese paisaje. (2枚目は「ロホ」(赤)ですが、これはその風景に暮らしている人々の問題について考えたアルバムなのです。) Es como un disco sanguino, de sangre, cuando empezamos a conversar con la artista plástica sobre el concepto del disco, pensábamos en el calor maternal y en los recuerdos del cuerpo como de una sensación intrauterina. (それは血液の色ということで、ある造形芸術家とこのアルバムのコンセプトについて話し始めた時、我々はそれを母体の暖かさ、胎内にいた時の身体に残った記憶をイメージしたのです。) Entonces ella pensó en una casa que arroje el objeto, la música. (そこで彼女は音楽を生む家を想定しました。) Lo curioso fue en los días que conversábamos en el concepto, la artista plástica se enteró que ella está embarazada. (不思議なことに我々がコンセプトについて話している何日かの間に、そ

の造形芸術家の女性は自分が妊娠していることに気付いたのでした。) *Entonces fue muy simbólico, fue como un autorretrato de ella.* (なのでこのジャケット・デザインはとてもシンボリックで、彼女の自画像のようでもあります。) *En el caso del tercer disco, el de violeta, el violeta es un color que está asociado para espiritualidad. Es un color de muy alta vibración.* (3枚目は「ビオレタ」(すみれ色)で、すみれ色は精神性とつながりのある色です。それは非常に高いバイブレーションを持った色です。) *El arte refleja en un ojo. Pero es un ojo en realidad que mira hacia adentro.* (ジャケットデザインには瞳が映し出されています。しかし実際には内面を見つめているのです。) *Entonces las composiciones que integra este álbum son, desde mi concepción, viajes hacia adentro.* (したがってこのアルバムを構成する曲は、私のコンセプトでは内面への旅なのです。) *Bueno, eso es un poco lo que determinaban el color y no les pusieron nombre. Simplemente se nombran por el color.* (これが色を決めた理由であり、タイトル名を付していない訳です。ただ単に色の名前で呼んでいます。)

*Primera vez llegué a saber el significado de las letras con la edición japonesa y entendí que las letras están muy ligados al sonido musical. Creo que es muy difícil entenderlo sin traducción de las letras. ¿No tiene idea de añadir en los álbums las letras traducidas en inglés, por ejemplo? ¿Principalmente a quiénes envía el mensaje del álbum? (私は今回日本盤が出たことによって初めて詞の内容についてわかり、その詞の内容がサウンドと密接に関係していることが理解できました。訳がなかったら、これを理解することは難しいと思います。例えば、英語訳をつけることなどはお考えではありませんか？ また、誰に向けて発信しているのでしょうか?)

(CA) Claro, sí es difícil. Sería muy bueno la idea. Es difícil de traducir todo lo que encierran en el idioma. (もちろん、でも難しいね。アイデアはいいと思いますが... 一つの言語にこめられたすべてを翻訳するのは非常に難しいことです。) *Incluso, a mí me gusta mucho escucharla una poesía aunque no tenga música en su idioma original. Aunque yo no entiendo la palabra, hay una música que están en la poesía, en una traducción se pierde. La traducción puede traer el sentido pero no la música de eso.* (加えて、私は音楽無しでも詩を、それが書かれたオリジナルの言語で聞くのが大好きです。たとえ単語はわからなくとも、詩にはそれ自体がもつ音楽性がある、翻訳ではそれは失われてしまいます。翻訳は意味を伝えることは出来ますが、音楽性は伝えることが出来ません。) *Pero tal vez es una buena idea poner una traducción en inglés para acercarse las personas.* (でも英語の翻訳をつけるということは人々に作品に近づいてもらうという意味ではたぶんいいアイデアだと思います。)

*Yo recibí un impulso enorme desde su música. Yo, como no escucho la música del tipo “World Music” diariamente, antes pensaba el folklore como algo viejo, como “El cóndor pasa”. Pero, como ya ha dicho en su conferencia, su música contiene varias influencias de la parte de los artistas de ECM, Keith Jarett o Bill Evans y resulta una música totalmente original sofisticada. Creo que es difícil explicar en palabras su música tan original, pero me interesa sobre todo que nombró Mono Fontana como uno de los más importantes músicos de Argentina. Generalmente la música de Mono Fontana se percibe como algo experimental o bien electrónica, pero creo que su música tiene una fuerza que pueda superar las paredes que están entre los géneros o las épocas. En ese sentido, la música de Carlos Aguirre tiene mucho en común aunque el estilo es bien diferente. En los álbums, su música también cambia poco a poco y me interesa mucho el cambio futuro de su música. (私はカルロス・アギーレさんの音楽にかなり衝撃を受けました。私のようにワールドミュージックを普段聞かない人間にとってフォルクローレと言うのは「コンドルは飛んでいく」のようなもっと古くさいものだと思っていました。しかしカルロスさんがさっきおっしゃったみたいに、あなたの音楽はフォルクローレに ECM やキース・ジャレットやビル・エヴァンスだとかの影響が混ざり合って、あなたにしか作れない洗練された音楽になっていると思います。その音楽世界はジャンルでは説明できないとは思いますが、その中で自分の国の誇れる音楽家としてモノ・フォンタナの名前を挙げていたのがとても興味深く思いました。一般的にモノ・フォンタナの音楽は我々にとってはすごくエキスペリメンタルで、どちらかといえばエレクトロニック・ミュージックとかそちらの方からもアプローチしているアーティストだというイメージがあるのですが、しかしながら私自身は彼の音楽がジャンルや時代を超える、時代の壁を突破するような音楽の強さを持っていると感じています。本質的なところであなたの音楽と、ジャンルやスタイルは違ってもものすごく近いものを感じています。カルロスさんのアルバムごとに表現方法も変わってきていると思いますが、今後どのような変化をしていくのか興味があります。)

(CA) Yo quería una cosita para comentar. Hace tiempo comencé el vínculo con Dino Saluzzi, el músico que tiene una profunda tradición folklórica, pero también una mirada muy abierta de la música. Y con él, a cada tanto tuvimos a conversar, él siempre me habla de propio folklore, en un momento de la vida comenzara a gestar una mirada propia del folklore, de no repetir fórmulas totalmente. (ひとつコメントしておきます。少し前にディノ・サルーシ³⁶と私は知り合いました。サルーシは深いフォルクローレの伝統を持ちつつ、音楽に対してとても開かれたまなざしをもった人です。彼と会うたびにたくさん話をするのですが、彼はいつも自分自身のフォルクローレのことを話します。彼の人生のある瞬間に、形

³⁶ ディノ・サルーシ (Dino Saluzzi, 1935-) : アルゼンチン・サルタ州出身のバンドネオン奏者。伝統的なフォルクローレからスタートするも、タンゴやフュージョンのスタイルにも挑戦、1980年代から欧州に拠点を移すが、現在はブエノスアイレスで活動。

式を繰り返すのではなく、フォルクローレの独自の見方が生まれ始めたというのです。) *Estudiar la profundidad de toda la música que se hicieron históricamente el folklore pero no pensar folklore como una pieza de museo sino como una expresión dinámica, como una persona que va mudando.* (フォルクローレが歴史的に作ってきたすべての音楽の深さを学ぶことは重要です。フォルクローレを博物館に飾られた遺品のように考えてはいけません。それは移動していく人間のようにダイナミックな表現なのです。) *A los músicos que son más jóvenes en Argentina, cuando se acerca a tomar una clase o la pedida alguna de sugerencia, yo les digo que no partan de las cosas que estamos haciendo algún compositor.* (アルゼンチンで私より若い音楽家たちに教えたり、助言をもとめられたりすることがあるのですが、私は今の作曲家がやっていることから出発すべきではないと言っています。) *Porque si ellos buscan las raíces del folklore, pueden tomar otro camino también y no sean un clon de Juan Quintero.* (なぜなら彼らがフォルクローレのルーツを探せば、別の道も取れるはずだからです。フアン・キンテーロのクローンになってもしょうがないのです。) *Muchos compositores que compone en un base de ritmos argentinos, respetamos mucho la forma de las coreografías.* (アルゼンチンのリズムをベースに作曲をしている作曲家は多数いて、我々は特にダンスの様式を尊重しています。) *Entonces una chacarera o una zamba siempre tiene misma cantidad de compases. En el disco Violeta, comenzó una nueva búsqueda personal de componer de base en su ritmo, pero ya no pensando que tiene que tener tantos compases.* (だからチャカレーラでもサンバでも、一定の小節数を持っています。アルバム「ビオレタ」の中では、そのリズムをベースにして作曲して、でも同じ小節数を守る必要はないと考えて新たな探求を始めました。) *Que la idea musical va a determinando cuán largo...* (音楽のアイデアがどれほどの長さにするかを決めたのです。) *Hay otro aspecto que para mí es muy importante que muchos de los ritmos argentinos tienen un componente africano.* (もう一つ私にとってとても重要な側面はアルゼンチンのリズムの多くがアフリカの要素を持っているということです。) *Para mí es muy importante en los próximos discos trabajar sobre ese concepto de recuperar ese aspecto afro en la música argentina.* (私にとってそのことはとても重要です、というのは次回作ではアルゼンチン音楽のそうしたアフリカ的な面を取りもどすというコンセプトに基づいて作品を作る予定だからです。) *En Argentina igual que en muchos países latinoamericanos hubo una comunidad africana muy importante, en otros países, en Brasil o en Uruguay o en Perú eso es muy claro, es muy evidente. Y se escucha en la música. En Argentina estas grandes comunidades de africanos participaron de muchas batallas fueron muriéndose y fueron mezclándose y eso hizo que la música no está presente, esa cosa que originalmente.* (アルゼンチンも他の多くのラテンアメリカ諸国と同じく、重要なアフリカ系のコミュニティが存在していました。ブラジル、ウルグアイ、ペルーといった他の国々ではそれは明示的で、音楽にも表れています。アルゼンチンではこれらのアフリカ系コミュニ

カルロス・アギーレ(Carlos Aguirre)

ティは多くの戦争に参加し死んでしまったり、混血していったりして、そのことが彼らの音楽を見えなくしてしまったのです。) Mi ciudad, por ejemplo, había un barrio de negros, barrio de morenos. Y actualmente recuperando la tradición de tocar tambores y se hace una llamada como en el Uruguay. (例えば私の街には昔黒人たち、モレーノたちの地区がありました。現在は太鼓を叩く伝統を取り戻そうとして、ウルグアイのようなジャマダー³⁷が行われています。) La llamada en Paraná es 12 de octubre. (パラナーでそのジャマダーを行うのは10月12日なのです。)

<この後、カルロス・アギーレ氏によるピアノ演奏>



foto: Masayo Tanimoto



foto: Masayo Tanimoto



foto: Masayo Tanimoto

³⁷ ジャマダー (llamada) : ウルグアイの首都モンテビデオで行われるカンドンベの行進の呼称。

自主制作レーベル「シャグラダ・メドラ」



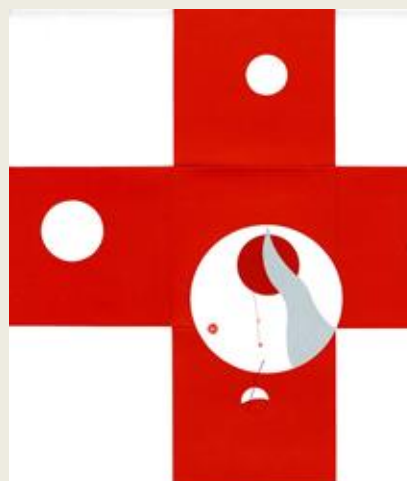
Crema



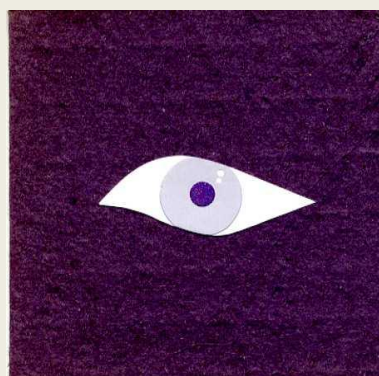
Francesca Ancarola



Lucho González



Rojo Abierto



Violeta

foto: Masayo Tanimoto

「"Department of Spanish and Portuguese"という概念は

日本の大学でも可能か？」

(2012年1月28日 名古屋大学 全学教育棟 406)

講師紹介：

河野 彰 (こうの・あきら)

専攻：ポルトガル語学

学歴：上智大学外国語学部ポルトガル語学科、同大学院外国語学研究科言語学専攻修士課程修了（文学修士）

職歴：1979年より大阪外国語大学講師。助教授、教授を経て、2007年大阪大学世界言語研究センター教授、2012年より大阪大学言語文化研究科教授

主要業績：

著書：『NHK ブラジル・ポルトガル語入門』 日本放送出版協会 2001年

主要論文：

「日本語とポルトガル語の言語接触」日本語と外国語との対照研究 III 『日本語とポルトガル語（1）』国立国語研究所・くろしお出版 所収 1996年

“Três etapas no contato linguístico português-japonês” *ENCRUZILHADAS/CROSSROADS* vol.4, University of California, Los Angeles 1995.

“Portuguese-Japanese Language Contact in 16th Century Japan” *Bulletin of Portuguese/Japanese Studies*, December 2001, volume 3 (Centro de História de Além-Mar, New University of Lisbon) 2001.

“Empréstimos lingüísticos como reflexo do fenômeno ‘dekassegui’” Américo Pellegrini Filho, Mitsuru Higuchi (org.) *Encontros Culturais Portugal – Japão – Brasil*, São Paulo, Editora Manole, 2002.

Conferência do Professor Akira Kono

Boa tarde, todos! Meu nome é Akira Kono, e eu sou professor de português da Universidade de Osaka, mas antes eu era professor da Osaka University of Foreign Studies: Osaka Gaikokugo Daigaku. Já ensinei quase 30 anos na Osaka Gaikokugo Daigaku. Mas, em 2007, se não me enganado, nossa universidade foi integrada, com a situação bastante misteriosa, pela Universidade de Osaka. A Universidade de Osaka é uma grande universidade em tamanho da Universidade de Nagoya. Então hoje a gente faz parte da gigantesca Universidade de Osaka. Daqui hoje estou com 63 anos, e daqui a 2 anos tenho que aposentar. E francamente falando, eu nunca estudei espanhol, *nunca he estudiado español*. E, porém, um pouco da gramática espanhola, e eu entendo um pouco de espanhol, mas falta de treino, não falo realmente espanhol. E desde muito tempo, eu sempre gostava muito de inglês, porque eu sou geração de pós-guerra, nasci em 1948, e quando eu era aluno de *high school*, era a época da olimpíada, jogos olímpicos. (2:50)

A gente sofreu muita influência americana. Nossa geração, por exemplo, vocês sabem que, um escritor japonês Haruki Murakami, ele é um ano mais novo do que eu. Então através do livro dele, vocês notam que ele sofreu muita influência norte-americana, ele gosta de Jazz, e eu também sou desta geração, e sempre eu gostava de inglês.

Então, por que resolvi minha especialidade em língua portuguesa na Universidade Sofia? Aliás, o professor Mito é formado na Universidade Sofia, eu também. E nós temos a mesma data com nosso aniversário, só que no ano diferente: nosso aniversário é 3 de setembro. E, bom, claro que ele é mais novo do que eu. Mas, isso assim, essa geração. (4:08)

Então, por que eu resolvi estudar português? Não é que eu tenho falido no vestibular para o curso de inglês, mas é que eu estive muito interessado na língua portuguesa, por seguinte: quando era o primeiro ano de *high school*, foi no ano de 1964, na aquela época, uma música bastante esquisita, ou *strange music* foi o número 1, no primeiro lugar de *hit parade* dos Estados Unidos, chamada *The Girl from Ipanema* (Garota de Ipanema). E eu fui comprar aquele EP, aquele *disc*, ringuinha. Eu o achei, mas na tenda ou na loja, o atendente me mostrou um LP importado dos Estados Unidos: um álbum chamado “Getz / Gilberto”. Era uma gravação de música Bossa Nova, que eles gravaram nos EUA com Antônio Carlos Jobim, Stan Getz e João Gilberto. Eu comprei e ouvi pela primeira vez o som da língua portuguesa. E claro, não sei se vocês chegarão a conhecer esta música, esse álbum. Mas hoje no You Tube vocês podem ouvir. Então, por favor, coloquem “Getz / Gilberto” no You Tube. E eu gostei muito; não gostei muito

da música da Garota de Ipanema, mais gostei muito, quando Joam Gilberto cantou “Pra Machucar Meu Coração”, essa música também estava incluída neste álbum. “Pra Machucar Meu Coração” é uma música de Ary Barroso. E eu vou citar um pedaço, né?

(Cantando).

Tá fazendo um ano e meio, amor

Que o nosso lar desmoronou

Meu sabiá, meu violão

Assim eu ouvi pela primeira vez ditongos vogais nasais 二重鼻母音, ditongos nasais: “*Meu vioLÃO.*”

Então a língua portuguesa me impressionou bastante. Isso, Que admirado! Que língua essa! Tinha alguma explicação na contra capa do álbum em inglês, e tentei decifrar, e entendi que era português brasileiro.

E então, que coisa interessante! E me movi a estudar português. Mas sempre gostava muito de inglês, e mais por causa dos Estados Unidos. Porque eu como eu sou da geração de pós-guerra, sempre tinha muito interesse e sofreu muita influência norte-americana. Então, nunca mesmo assim estudando português, nunca parei de estudar inglês, e através do programa de NHK. Hoje o programa de língua que se transmite é horrível e estúpido. Mas na minha época era ótima, ótima, então eu aprendi muito bem inglês. Também antes de conhecer Estados Unidos, eu já falava inglês. Mas também eu estudava português. Então eu, assim sempre meu sonho era ir aos Estados Unidos, e casar com uma americana, e aquela americana que a gente via na TV. Mas nunca tive este chance. Mas assim, sempre interessava muito pela sociedade americana, pelas universidades americanas. E por isso nunca peguei espanhol.

(8:30)

Nunca, até agora, nunca tinha me interessado na língua espanhola. Mas hoje o meu assunto é o conceito de “Department of Spanish and Portugues” possível aqui no contexto universitário japonês. Por que eu pensei ou por que eu comecei pensar neste assunto? É que desde 10 ou 15 anos atrás, comecei muito contacto com pessoal da Universidade Califórnia. Eu fui lá várias vezes, outro dia eu contei que fui a Califórnia 25 vezes, desde a minha primeira visita em 1975 até hoje. Não conheço outra região, outra área dos Estados Unidos, sou conheço Califórnia, porque fica mais perto do Japão, e Califórnia é o tipo *gateway* para nós e para vocês aos Estados Unidos.

(9:32)

Então, através de este contato também uma das minhas antigas alunas, hoje é minha colega, professora Etsuko Hirata, como ela estudou a literatura brasileira no departamento de

"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？

espanhol e português, e com isso também interesse mais no sistema norte-americano. Depois, Conheci Hiroyuki Mito, e ele é um dos raros professores japoneses, de professor de espanhol e português. Este tipo não existe no Japão.

(10:17)

Porque no Japão especialmente quando éramos na Universidade Gaidai, sempre a gente falava de “Tako tsubo.” (*em japonês*) *Vocês sabem o que é Tako tsubo?* Tako tsubo é um vaso para pegar *octopus*, polvo (*esp. pulpo*). Então cada departamento estava isolado, e não tinham contato entre. Mesmo entre espanhol e português, a gente dava bom dia, mas cada departamento era independente e não tinha nenhum contato. E desde (que) a fusão com a Universidade Osaka, conseguimos algumas verbas, e eu convidei para nossa universidade, para Japão, alguns professores da Universidade Califórnia, são professores brasileiros, e eles contribuíram de forma interessante para a gente entender melhor o sistema americano.

(11:30)

Então, antes de mais nada, eu quero apresentar: como é o sistema nas universidades americanas? Por que lá nos Estados Unidos eles têm “department of Spanish and Portuguese”? É como uma questão de conveniência, eles falavam, ne? Porque é muito diferente do Japão, espanhol para americanos, pelo menos na área de Califórnia, Texas, Florida, etc. Espanhol tem papel igual ou semelhante à língua chinesa ou coreana para nós japoneses aqui. Então é uma língua de vizinhança ou vizinha, e se vocês visitarem Califórnia, logo vão perceber que tem monte de *hispano hablantes*, todo o mundo está falando, muita gente está falando em espanhol. Então, espanhol virou ou se tornou a segunda língua praticamente, segunda língua nos Estados Unidos, por isso espanhol é muito importante para a universidade americana.

E para português sobreviver no contexto americano, no contexto universitário americano, eles acham que é melhor ficar com departamento de espanhol, é um tipo de casamento de conveniência. (rindo) E o departamento de português independente, só tem na Universidade Brown. Brown University tem a *Department of Portuguese and Brazilian studies*. Isso é uma realidade no contexto americano. De resto só *department of Spanish and Portuguese*.

(13:38)

Algumas universidades de escala menor ou nível pior, tipo *California State University*, eles têm *department of modern languages*, isso quer dizer que línguas modernas, então esse tem espanhol, português, italiano, alemão, francês, juntos. Não chega a ter assim um departamento independente de espanhol e português. Maioria das universidades, tanto estaduais quanto particulares, tem *department of Spanish and Portuguese*, Stanford também.

E hoje preparei *handout* aqui, e vamos ver, vamos lêr juntos “Description of the Program”.

O que é que o pessoal da UCLA? Conta o detalhe do departamento deles.

Deixe-me citar. Vou lê-lo.

Few universities in the world offer the extraordinary range and diversity of programs and courses that undergraduate students enjoy at UCLA. The Department of Spanish and Portuguese contributes to UCLA's rich intellectual environment through the study and teaching of the languages, literatures, and cultures of Spanish- and Portuguese-speaking peoples in all areas of the world, particularly the Americas and Europe.

The department offers majors in Spanish, Spanish and Community and Culture, Spanish and Portuguese, Portuguese, and Spanish and Linguistics, which are designed to give students a strong preparation in the languages, literatures, linguistics, and cultures of the Spanish and Portuguese speaking world. The department also offers minors in Portuguese, Spanish, Spanish Linguistics, and Mexican Studies.

*The richness of the Spanish- and Portuguese-speaking world is amply represented in the extensive range of courses in language, literature, linguistics, and culture. Our language program offers courses primarily in Spanish and Portuguese at all levels of proficiency, and is enriched by the addition of courses in Catalan, and indigenous languages of Latin America such as *Quechua*. In addition to courses on the literatures and cultures of Spanish America, Spain, Brazil, and Portugal, the department also offers courses on Chicano literature and culture. Many of the department's courses have an interdisciplinary orientation, and include the study of film, music and other forms of artistic expression. Courses in linguistics study the sound system, the sentence patterns, the historical evolution, the regional variants, and the sociolinguistics of Spanish and Portuguese, utilizing concepts of modern linguistic theory. Cito.*

(17:02)

Assim da para saber, mais ou menos, o conceito geral do departamento de espanhol e português das universidades americanas. Outras universidades, tipo Universidade Califórnia Berkeley e U.C. Santa Barbara têm mais ou menos o mesmo esquema. Só a Universidade Brown é que diferente, Brown University é uma universidade particular, *private universty*, que tem muito dinheiro, e eles ficam lá na costa leste, Rhode Island. Então lá tem comunidade portuguesa também. Então, parece que tem condições de departamento independente de português sobreviver. Mas em Califórnia, pelo menos, região que conheço muito bem, a língua espanhola é uma língua muito, muito importante. Então para pessoal, para nós, para quem trabalha na área de português, sempre seria mais interessante ficar cá junto com departamento de espanhol. E como eles falam aqui? E eles acham que seria mais interessante não separar espanhol e português.

"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？

E porque nos Estados Unidos o seu governo ou a população em geral não mostra nenhum interesse pela cultura *gay* e línguas estrangeiras. Porque eles acham que, os americanos em geral acham que todo o mundo tem que precisar falar inglês: *We are the Number One*. Então, para que estudar espanhol ou português, línguas estrangeiras? Então, para quem trabalha na área de línguas estrangeiras ou literatura ou cultura estrangeira, sempre seria interessante ficar juntos. Tem um slogan: Povo unido jamais será vencido; *Pueblo unido jamás será vencido*, é a mesma coisa. Então para eles seria sempre interessante ficar juntos, espanhol e português.

(19:24)

Então, o que aconteceu com universidade japonesa? E qual era a universidade, primeira universidade, onde criou departamento ou curso de português? Foi “Tokyo Gaikokugo Gakko”, o antigo sistema antes da guerra, da Universidade de Estudos Estrangeiros de Tóquio. Há várias hipóteses, mas, pelo menos, eu sei que foi em 1916 quando foi criado o departamento de português, 8 anos mais tarde, 8 anos depois da chegada da primeira imigração, emigração japonesa para o Brasil. O japonês chegou no Brasil em 1908 como primeira onda de emigrante japonês. E o curso de espanhol já tinha, já existia mesmo antes na época de Meiji sem dúvida. Talvez o professor Mito depois possa me ajudar. Já tinha essa história. Mas o curso ou departamento de português foi criado aqui no Japão como um curso independente, e Tokyo Gaikokugo Gakko era a única no gênero, porque não tinha em outra escola igual à Tokyo Gaikokugo Gakko. Depois, em Osaka, foi criado nosso antepassado, depois virou Osaka University of Foreign Studies. Por isso não existia esse conceito de juntar espanhol e português no mesmo departamento. Então no Japão não existe nenhum departamento de espanhol e português.

(21:40)

E eu cheguei a conversar através de meus contatos com os professores americanos ou professores trabalhando nas universidades americanas, e os professores portugueses e brasileiros ensinando nas universidades americanas, não gostam desta ideia de “espanhol e português”, claro, como o português e o brasileiro tem orgulho, não querem ser trocados com ou por espanhol; espanhol e português diferentes, eles querem separar. Mas os professores americanos da área são mais pragmáticos, e como eles falam “seria interessante”, ficam mais fortes quando duas línguas se juntar. Mas depois, eu fiquei *the home page* deles, e eis que aqui alguns cursos.

(22:50)

A partir da página 3, começa o catálogo de cursos, aulas. Eu quero enfatizar que eles não estão ensinando espanhol e português ao mesmo tempo, apenas eles colocam espanhol e português lado a lado. E per um realmente ridículo convênio eles têm ótimos cursos de espanhol e português. Mas, vocês, a partir da página 3, vocês podem ver que tem mais cursos, aulas de espanhol do que português. Português começa no caso da UCLA, na página 7. E lá tem também

do lado de português, também eles têm muitos cursos, muitas aulas de vários níveis, mas sempre tem maior número de espanhol do que português.

(24:35)

E também a partir da página 9, tem lista de *faculty*, como os americanos falam, lista de professores, *Core Faculty*. E eu gritei os nomes de professores atuando na área de português, lá na UCLA tem somente 3 professores: Carlos Quícoli na página 10 *Professor Portugues Linguistics*, ele é discípulo de Noam Chomsky, é um linguista muito famoso. Eu convidei ele para nossa universidade e ele gostou e passou muito bem aqui conosco em Osaka. Mas ele é brasileiro, mas fez doutorado na universidade americana, e mora muito tempo nos Estados Unidos. E muito interessante que, apesar de ser brasileiro, ele gosta muito de baseball. (rindo) Uma coisa, uma figura muito curiosa. E este professor Carlos Quícoli trabalha na área de português e linguista.

Depois, cadê? Lá encima tem José Luiz Pazos. Também convidei ele para nossa universidade, ele também é brasileiro, pernambucano. Fez doutorado na Universidade Califórnia. E professora Claudia Parodi é mexicana, mas mora muito tempo nos Estados Unidos, e, mas ela é falante nativa de espanhol. Professora Anna More, eu encontrei com ela, ela é professora da literatura latino-americana, e a literatura colonial, e trabalha na área de espanhol, mas ela falou comigo em português muito bem, muito bem em português!

Na última parte da página 9, tem Randal Johnson, ele é *distinguished* professor, professor mais famoso, que ele tem a mesma idade comigo, ou seja, uma figura. Ele é especialista da literatura brasileira, filme; publicou um livro sobre aquele diretor de filmes português Oliveira; que Oliveira? Esqueci. (Manoel de) Oliveira, aquele já tem mais de 90 anos. Ele publicou um livro sobre o cinema novo, Glauber Rocha, depois, ultimamente ele tratou do diretor, o realizador como se diz em Portugal, M. Oliveira. Ele é um excelente professor.

Então só tem 3. E talvez vocês saibam que lá na UCLA tem *lecturers*. *Lecturer* é professor em escala menor. E tem uma do Brasil. E na U.C Berkeley, eu cheguei a conhecer uma professora, Clair Donovan, ela é americana, mas ela é *lecturer*, ainda não tinha doutorado, e ela dava aulas de português. Não era falante nativa, mas falava português muito bem. E lá nos Estados Unidos os alunos de pós-graduação ensinam curso de língua e curso de graduação, ou *undergraduate* com supervisões de professores.

Então esses professores ensinam mais linguística ou literatura; mas, como se vê aqui, a ênfase é mais na área de literatura. Então é no contexto americano, *major in Spanish* ou *major in literature*, especializar-se em português ou em espanhol, quer dizer estudar em língua original a literatura dessas línguas; então por isso, literatura espanhola ou latino-americana ou literatura portuguesa ou literatura brasileira ou literatura africana de expressão portuguesa. Então a ênfase mais, literatura. E hoje em dia *cultural studies*.

"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？

Como vocês vêm, que major número de professores atuando na área de espanhol do que português! Português só tem 3. E também como vocês podem ver, essas aulas a partir de, página, cadê? página 3, começa a lista de aulas, mas, por favor, voltem para a página 2. Lá tem descrições sobre *Departmental Majors*. Então os alunos, no contexto americano, os alunos podem formar optais aulas, seu próprio major Então existe major, *B.A.(Bachelor of Arts) in Spanish*, então os alunos após da matrícula, podem ignorar português, e só estudar áreas ligadas a espanhol. Então, esse é uma *major*, um tipo de *major: B.A. in Spanish*

(31:23)

Então na página 3, vocês vêm o número item 2) *B.A. in Spanish and Community and Culture*, porque lá nos Estados Unidos, especialmente, no Estado de Califórnia tem muito trabalho, muito emprego ligado à língua espanhola. Porque vocês podem ser professoras de *primary school* escola primária, *bilingual education* educação bilíngüe usando espanhol, porque tem muitos *hispanohablantes* na Califórnia, e *culture* também. E, tinha uma menção sobre *Chicano Literature* porque lá nos Estados Unidos, especialmente, na Califórnia moram muitos *hispanohablantes*, e eles expressam literatura em inglês e espanhol, esta área é muito interessante.

(32:25)

E também como o item 3) *B.A. in Spanish and Linguistics*, então esse programa é conjunto com o departamento de linguística, você estuda algumas matérias no departamento de linguística, você aplica essa teoria para espanhol. Então você estuda espanhol e linguística.

Como o item 4) *B.A. in Spanish and Portuguese*, aqui uma coisa interessante. Aqui os alunos podem juntar *Spanish and Portuguese*, espanhol e português. Aqui este caso me interessa bastante, porque os alunos têm que estudar tanto espanhol quanto português. Então como aí que eles não misturam duas? É uma coisa interessante.

E agora como o item 5) *B.A. in Portuguese*. Aqui vocês podem fazer português como seu *major*, ignorando espanhol, só optativo, algo mais de matérias nas áreas de português. Então seria um sistema bastante flexível. E depois a gente vai discutir como é que vai ser o caso da universidade japonesa.

Mas antes vamos para a página 10, unicamente na minha aula, seminário da linguística portuguesa, eu hei tratado de assuntos de tradução. E, eu peguei o livro de Paulo Coelho “Onze minutos”. Eu não recomendo este livro, porque se trata de prostituta brasileira, só isso, né? Mas, o que interessa mais, não é a prostituta, mas o português, o texto em si. E este livro tem tradução japonesa, e um tradutor japonês, ele o traduziu, e o livro foi publicado pela *K. Bunko (coleção K. de livros de bolso)*.

(35:01)

Mas na seção de crédito tem título português “Onze minutos,” Paulo Coelho, e não diz de

editora como Barcelona, então isso que com dúvida, né? Porque no prologo, ou, ---como se diz em português *atogaki (epílogo)*?--- não se menciona nada, se ele se baseou no texto original ou traduziu da versão espanhola. Então eu resolvi examinar o texto espanhol também, ainda não cheguei à conclusão. Mas, ultimamente, o tradutor japonês não menciona isso. Eu não sou contra a tradução indireta, mas, pelo menos, ele tem que ser mais honesto. “Eu traduzi este livro “Alquimista”,” por exemplo, “da tradução inglesa,” a tradutora da Alquimista falou assim claramente. Mas este caso me estranha.

E minha intenção era comparar este livro em três línguas, inglês, português e espanhol, do ponto de vista de um leitor ou aprendizado de japonês. E vamos para o primeiro trecho. Esta é a frase iniciar do livro.

P) *Era uma vez uma prostituta chamada Maria.*

E na tradução espanhola é assim:

S) *Érase una vez una prostituta llamada Maria.*

“*María*” é sem acento. Eu não quero ser soado como detalhista, mas “*María*” em espanhol tinha que ter acento agudo, né? Mas aqui não tinha, porque “*Maria*” é brasileira, talvez. “*María*” não dá no mundo hispânico, mas “*Maria*” da língua portuguesa, talvez.

Mas no caso de inglês:

E) *Once upon a time, there was a prostitute called Maria.*

E, claro, mesmo só comparando a primeira frase do livro, a gente pode ver que português e espanhol são muito mais parecidos, claro, do que inglês. E a gente sabe geralmente, os japoneses sabem mais inglês, porque o inglês é a nossa primeira língua estrangeira, e o ensino e a pesquisa do inglês é mais evolvido. Mas do ponto de vista de português e espanhol, são duas línguas mais semelhantes, mas tinha propaganda no Brasil: *pero no mucho*. “*Pero no mucho*”, né? Então, é “*ma non troppo*” também. Chico Buarque citou esta frase.

Português e espanhol são muito semelhantes, *ma non troppo, pero no mucho*.

“*Era uma vez*” e “*Érase una vez*”, não sei se esse em espanhol é correto ou não. Mas tem que ser verbo reflexivo: “*érase una vez*”. No inglês é completamente diferente: “*Once upon a time, there was a prostitute called Maria.*”

E vamos passar a seguinte frase:

P) *Um momento. “Era uma vez” é a melhor maneira de começar uma história para crianças, enquanto “prostituta” é assunto para adultos.*

E a tradução espanhola vai assim:

"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？

S) *Un momento. "Érase una vez" es la mejor manera de comenzar una historia para niños, mientras que "prostituta" es una palabra propia del mundo de los adultos.*

Então, a gente pode ver aqui que a tradução espanhola não é apenas a substituição de palavras. O tradutor espanhol adotou uma, outra estratégia. Aqui o original que Paulo Coelho escreveu: *enquanto "prostituta" é assunto para adultos*; e o tradutor espanhol modificou o texto dizendo que ele: *"prostituta" es una palabra propia del mundo de los adultos*. E o tradutor americano traduziu diretamente do português para o inglês, e diz assim:

E) *Wait a minute. "Once upon a time" is how all the best children's stories begin and "prostitute" is a word for adults.*

E vamos ver a última citação:

P) *Enquanto o príncipe encantado não aparecia, só lhe restava sonhar.*

S) *Mientras el príncipe encantado no aparecía, lo que le quedaba era soñar.*

Também eles adotaram outra construção.

E) *While she was waiting for her Prince Charming to appear, all she could do was dream.*

Então, claro que para quem, mesmo para, do ponto de vista dos japoneses? Quem já estudou espanhol primeiro, tipo professor Mito ou professora Shigematsu? Naturalmente português é mais acessível, mais próximo do que inglês. A gente sabe inglês melhor. Por quê? É nossa primeira língua, e a gente já gastou mais tempo estudando inglês, só isso. Espanhol e português são muito mais semelhantes. Mas, é, por isso, que existe certo perigo de fazer confusão. Então, para a gente dominar duas línguas tem que fazer muito bem a pesquisa e estudo contrastivos entre português e espanhol. Claro que para quem já estudou espanhol, português seria muito mais fácil, mas aí é que existe certo problema, que você acaba falando "portunhol", vice-versa. Os brasileiros acham que eles sabem espanhol, mas não sabem. Eu acho que eu sei espanhol, nem eu não sei espanhol.

Mas uma vez eu assisti à palestra de um linguista porto-riquenho, entendi perfeitamente, *perfectamente*, a palestra dele. Mas depois, meus colegas do departamento de espanhol me convidou junto com esse professor convidado para um restaurante chinês, para a gente comer e bater papo, *charlar*. Não entendi nenhuma palavra, porque não sabia nenhum coloquialismo espanhol, nunca visitei, nunca fui a países da língua espanhola, etc. etc. Então problema não é só a questão de semelhança entre português e espanhol.

(42:58)

Então como já vimos que, como é o sistema americano, então para montar curso aqui

no contexto japonês, eu, na página 11, na página em japonês.

Alguns temas interessantes: aqui no Japão temos duas correntes de ensino de língua. Uma é “Gaigodai kei”, quer dizer que nós ensinamos língua espanhola ou portuguesa, ou qualquer língua como língua de especialização, então é ensino mais intensivo, os alunos ficam pegados a essa língua, tanto em Osaka, Tokyo, atualmente, Kyoto Gaidai, Kobeshi Gaidai, etc. Outra, igual a aqui em Nagoya e Osaka Daigaku, os alunos não são de faculdade de línguas estrangeiras. São alunos de direito, economia, engenharia, mas optam escolham algumas aulas de língua.

(para uma ouvinte em japonês)

(河野) えーっと、あなたは何学部ですか？ (聴講者) 日本語文化専攻なんですけれども。(河野) 大学院生。ああ、そうかそうか。で学部は？ (聴講者) 学部は人文学部です。(河野) 人文学部ね。だから外国部学部ではないですよ。ですから、そういう点では、*As duas correntes, né?*

(Prof.) Então, de que faculdade é que você é? (Ouv.) Sou estudante do curso de graduação de língua e cultura japonesas. (Prof.) Você é estudante de pós-graduação. Entendi. Então, qual foi seu curso de graduação? (Ouv.) Faculdade de humanidades. (Prof.) Faculdade de humanidades, né? Então, não foi faculdade de estudos estrangeiros, viu? Por isso, nesse ponto,

(voltando em português)

... as duas correntes, né?

Então, e na minha opinião pessoal, eu acho interessante, a gente quer ver, eu e outras áreas de português colaborar com o pessoal de espanhol. Mas, nem todos têm essa ideia. Eu tenho mais assim essa ideia e mentalidade mais aberta, acho melhor colaborar com o departamento de português (vice versa), porque a nossa situação está ficando cada vez mais difícil. A universidade quer cortar verba, e nós temos muitos problemas para sustentar nosso curso. Então, no último caso, eu acho melhor, eu e nós, nossa área colaborar com o pessoal de espanhol, se não, não tem saída.

Mas, como se vê através do sistema americano, eu estou sugerindo que a gente ensine português e espanhol ao mesmo tempo, não. Apenas como sistema, esquema de departamento, temos que colocar espanhol e português lado a lado, e se um aluno quiser, pode estudar primeiro espanhol, depois português, ou vice-versa. Mas, aprender e ensinar português e espanhol ao mesmo tempo é só impossível, eu acho.

Bom! Então, eu já coloquei mais ou menos assunto, tanto gostaria de abrir espaço para discussão.

(46:13)

配布資料

(p.1)

【講演要旨】

アメリカの大学における”Department of Spanish and Portuguese”のカリキュラムを参照しつつ、①我が国におけるスペイン語教育、ポルトガル語教育はいかにあるべきか ②日本の学生にとってスペイン語とポルトガル語の双方を履修することは可能か ③スペイン語、ポルトガル語をともに学ぶ上での問題点は何か、などの項目について考察を加える。参加者とともに議論を深める形式をとりたいので、単なる一方通行の講演ではなく、参加者にも大いに発言していただきたい。

1. UCLA – Department of Spanish and Portuguese

DESCRIPTION OF THE PROGRAM

Few universities in the world offer the extraordinary range and diversity of programs and courses that undergraduate students enjoy at UCLA. The Department of Spanish and Portuguese contributes to UCLA's rich intellectual environment through the study and teaching of the languages, literatures, and cultures of Spanish- and Portuguese-speaking peoples in all areas of the world, particularly the Americas and Europe.

The department offers majors in Spanish, Spanish and Community and Culture, Spanish and Portuguese, Portuguese, and Spanish and Linguistics, which are designed to give students a strong preparation in the languages, literatures, linguistics, and cultures of the Spanish and Portuguese speaking world. The department also offers minors in Portuguese, Spanish, Spanish Linguistics, and Mexican Studies.

The richness of the Spanish- and Portuguese-speaking world is amply represented in the extensive range of courses in language, literature, linguistics, and culture. Our language program offers courses primarily in Spanish and Portuguese at all levels of proficiency, and is enriched by the addition of courses in Catalan, and indigenous languages of Latin America such as Quechua. In addition to courses on the literatures and cultures of Spanish America, Spain, Brazil, and Portugal, the department also offers courses on Chicano literature and culture. Many of the department's courses have an interdisciplinary orientation, and include the study of film, music and other forms of

artistic expression. Courses in linguistics study the sound system, the sentence patterns, (p.2) the historical evolution, the regional variants, and the sociolinguistics of Spanish and Portuguese, utilizing concepts of modern linguistic theory.

Courses offered by the department constitute the core for the majors and minors, and provide an excellent foundation for graduate or professional study. In addition, language skills in Spanish and Portuguese, combined with the training provided by a first-rate liberal arts education, constitute an invaluable preparation for careers in many walks of life, including business, international affairs, law, diplomacy, and government service. In an increasingly global community, government and industry often give preference to job applicants who are proficient in Spanish, the native language of many hundreds of millions in the Americas, and Portuguese, recognized by the U.S. government as a critical foreign language, and spoken by hundreds of millions in Brazil, Portugal, and Africa, all regions that are of vital interest to the United States.

For non-majors, the department's rich set of language, linguistics, literature and culture courses, ranging from introductory to advanced, serve also to support the undergraduate and graduate majors offered by other UCLA departments, and for the general intellectual enrichment of all UCLA students. Many of these courses are taught in English.

MAJORS & MINORS

Thanks to our location in Los Angeles, the Department of Spanish and Portuguese at UCLA is able to provide a unique perspective on the study of Spanish and Portuguese. Spanish was spoken here before English, and is either the native or the second language of half our population. In addition to its thriving Chicano community, Los Angeles has a growing population from all parts of Latin America and Spain. Los Angeles is also home to a substantial Portuguese community, and houses the largest Brazilian community on the West Coast. Los Angeles is an important center of cultural and business activities with close ties to the Spanish and Portuguese speaking world. This diverse context has served as a basis for structuring our majors, and is reflected in our faculty, and in our course offerings.

DEPARTMENTAL MAJORS

Courses in the Department of Spanish and Portuguese are primarily designed to support the five majors, all of which lead to the B.A. degree:

- 1) B.A. in Spanish: this major is designed to provide preparation in the language, literature and

"Department of Spanish and Portuguese"という概念は日本の大学でも可能か？

culture, and linguistics of the Spanish-speaking world. (p.3)

- 2) B.A. in Spanish and Community and Culture: this major provides preparation in language, linguistics, literature and culture, with a focus on the communities of Hispanic heritage in Los Angeles and in the United States.
- 3) B.A. in Spanish and Linguistics: this is a joint major offered by the Department of Spanish and Portuguese and the Department of Linguistics. It is designed to prepare students who wish to focus on the study of the structure of the Spanish language in the context of modern linguistic theory.
- 4) B.A. in Spanish and Portuguese: this major allows students to combine the study of the Portuguese and Spanish languages, Portuguese and Spanish linguistics, the literatures and cultures of Brazil and Portugal, and the literatures and cultures of the Spanish-speaking world.
- 5) B.A. in Portuguese: this major allows students to focus on the language, linguistics, and literature and culture of Brazil and the Portuguese-speaking world.

Double majors involving Portuguese: students may find it possible to secure the B.A. degree with two complete majors (e.g. Portuguese/Spanish; Portuguese/History, Portuguese/Sociology, etc.). Interested students should consult the undergraduate adviser in Portuguese as early as possible in their B.A. program.

DEPARTMENTAL MINORS

The Department offers four minor programs that are designed for students pursuing a major in other departments but who are interested in adding a minor component focused on areas supported by courses in Spanish and Portuguese. The following minors are currently offered:

- 1) Spanish
- 2) Spanish Linguistics;
- 3) Portuguese;
- 4) Mexican Studies;

Spanish

Lower Division Courses Upper Division Courses Graduate Courses

Lower Division Courses

1. Elementary Spanish (4)
- 1G. Reading Course for Graduate Students (4)
2. Elementary Spanish (4)
- 2A. Intensive Spanish (4)
- 2G. Reading Course for Graduate Students (4)
3. Elementary Spanish (4)
- 3A. Intensive Spanish (4)
4. Intermediate Spanish (4)
5. Intermediate Spanish (4)

7. Intermediate Spanish for Spanish Speakers (4) (p.4)
- 8A. Spanish Conversation (2)
- 8B. Spanish Conversation (2)
- 9A. Advanced Conversation (2)
- 9B. Advanced Conversation (2)
10. Intensive Elementary Spanish (12)
19. Fiat Lux Freshman Seminars (1)
25. Advanced Conversation and Composition (4)
27. Composition for Spanish Speakers (4)
- 28A. Spanish for Special Purposes: Medical (4)
- M35. Spanish, Portuguese, and Nature of Language (5)
42. Iberian Culture (5)
44. Latin American Culture (5)
- 60A. Hispanic Literatures in Translation: Spanish Literature (4)
- 60B. Hispanic Literatures in Translation: Spanish-American Literature (4)
- 60C. Hispanic Literatures in Translation: "Don Quijote" (4)
88. Lower Division Seminar (4)
89. Honors Seminars (1)
- 89HC. Honors Contracts (1)
97. Variable Topics in Spanish (2)
99. Student Research Program (1 to 2)
- Upper Division Courses
- 100A. Introduction to Study of Spanish Grammar: Phonology and Morphology (4)
- 100B. Introduction to Study of Spanish Grammar: Syntax (4)
- 102A. Catalan Language and Culture I (4)
- 102B. Catalan Language and Culture II (4)
119. Structure of Literary Work (4)
120. History of Literature (4)
130. Topics in Medieval Studies (4)
135. Topics in Early Modern Studies (4)
140. Topics in Modern Studies (4)
- M145A. Introduction to Chicano Literature: Literature to 1960 (4)
- M145B. Introduction to Chicano Literature: Literature after 1960 (4)
- M146. Chicano Narrative (4)
150. Topics in Contemporary Studies (4)
155. Topics in U.S. Latino Studies (4)

160. Topics in Spanish Linguistics (4) (p.5)
- M165SL. Taking It to Street: Spanish in Community (5)
170. Topics in Media, Interdisciplinary, and Transhistorical Studies (4)
- M172SL. Latinos, Linguistics, and Literacy (5)
175. Topics in Creative Writing and Translation (4)
- 187A. Advanced Tutorial in Community and Culture I (1)
- 187B. Advanced Tutorial in Community and Culture II (2)
189. Advanced Honors Seminars (1)
- 189HC. Honors Contracts (1)
- 191A. Variable Topics in Spanish: Studies in Hispanic Literature and Linguistics (4)
- 191B. Variable Topics in Spanish: Studies in Hispanic Culture and Civilization (4)
- 191C. Senior Capstone Seminar (4)
195. Community Internships in Spanish (4)
197. Individual Studies in Spanish (2 to 4)
198. Senior Honors Research in Spanish (4)
199. Directed Research in Spanish (2 to 4)
- Graduate Courses
- M200. Research Resources (4)
- M201A. Literary Theory and Criticism (4)
- M201B. Literary Theory and Criticism (4)
- 202A. Phonology (4)
- 202B. Morphology (4)
- 204A. Generative Syntax and Semantics (4)
- 204B. Generative Syntax and Semantics (4)
- M205A. Development of Portuguese and Spanish Languages (4)
- M205B. Development of Portuguese and Spanish Languages (4)
209. Dialectology (4)
221. Medieval Lyric Poetry (4)
222. Medieval Epic and Narrative Poetry (4)
223. Medieval Prose (4)
224. Poetry of the Golden Age (4)
225. Drama of the Golden Age (4)
226. Prose of the Golden Age (4)
227. Cervantes (4)
228. The Enlightenment (4)
229. Romanticism (4)

230. Realism and Naturalism (4) (P.6)
231. Major Currents in Modern Spanish Literature (4)
232. Spanish Prose Literature from 1898 to the Civil War (4)
233. Spanish Prose Literature after the Civil War (4)
234. Spanish Drama and Poetry from 1898 to the Civil War (4)
235. Spanish Drama and Poetry after the Civil War (4)
237. Literature of the Spanish Conquest (4)
238. Baroque, Enlightenment, and Neoclassicism in Colonial Literature (4)
239. Romanticism and Realism in Spanish-American Literature (4)
240. Major Currents in Modern Spanish-American Literature (4)
- 241A. Contemporary Spanish-American Short Story (4)
- 241B. Contemporary Spanish-American Short Story (4)
- 243A. Contemporary Spanish-American Poetry (4)
- 243B. Contemporary Spanish-American Poetry (4)
- 244A. Contemporary Spanish-American Novel (4)
- 244B. Contemporary Spanish-American Novel (4)
245. Contemporary Spanish-American Essay (4)
246. Contemporary Spanish-American Drama (4)
247. Chicano Literature (4)
- M249. Folk Literature of Spanish and Portuguese Worlds (4)
- M251A. Studies in Galegan-Portuguese and Old Spanish (4)
- (M251B. Studies in Galegan-Portuguese and Old Spanish (4)
- 256A. Studies in Spanish Linguistics (4)
- 256B. Studies in Spanish Linguistics (4)
257. Studies in Dialectology (4)
- 262A. Studies in Medieval Spanish Literature (4)
- 262B. Studies in Medieval Spanish Literature (4)
- 264A. Studies in Golden Age Spanish Literature (4)
- 264B. Studies in Golden Age Spanish Literature (4)
265. Cervantes (4)
- 270A. Studies in 18th-Century Spanish Literature (4)
- 270B. Studies in 18th-Century Spanish Literature (4)
- 271A. Studies in 19th-Century Spanish Literature (4)
- 271B. Studies in 19th-Century Spanish Literature (4)
- 272A. Studies in 20th-Century Spanish Literature (4)
- 272B. Studies in 20th-Century Spanish Literature (4)

- 277A. Studies in Colonial Spanish-American Literature (4) (p.7)
277B. Studies in Colonial Spanish-American Literature (4)
278A. Studies in 19th-Century Spanish-American Literature (4)
278B. Studies in 19th-Century Spanish-American Literature (4)
280A. Studies in Contemporary Spanish-American Literature (4)
280B. Studies in Contemporary Spanish-American Literature (4)
281. Studies in Chicano Literature (4)
286A. Studies in Hispanic Folk Literature (4)
286B. Studies in Hispanic Folk Literature (4)
290. Special Topics (4)
291A. Colonial Studies Research Group (2)
291B. Colonial Studies Research Group (2)
M294. Seminar: Literary Theory (5)
296. Graduate Research Group (2)
M299. Research Resources for European Studies (2)
370. Teaching Spanish in Secondary School (4)
373. Teaching Composition (2)
375. Teaching Apprentice Practicum (1 to 4)
490. Using Technology in Foreign Language Classroom (4)
495. Teaching Spanish at College Level (4)
596. Directed Individual Study or Research (4 or 8)
597. Preparation for Graduate Examinations (4 to 12)
598. Research for M.A. Thesis (4 to 12)
599. Research for Ph.D. Dissertation (4 or 8)

Portuguese

Lower Division Courses Upper Division Courses Graduate Courses

Lower Division Courses

1. Elementary Portuguese (4)
2. Elementary Portuguese (4)
3. Intermediate Portuguese (4)
- 8A. Portuguese Conversation (2)
- 8B. Portuguese Conversation (2)
- 11A. Intensive Portuguese (5)
- 11B. Intensive Portuguese (5)
19. Fiat Lux Freshman Seminars (1)

25. Advanced Portuguese (4) (p.8)
26. Language and Popular Culture (4)
27. Advanced Composition and Style (4)
- M35. Spanish, Portuguese, and Nature of Language (5)
- 40A. Portuguese, Brazilian, and African Literature in Translation: Portuguese and Portuguese-African Literature (4)
- 40B. Portuguese, Brazilian, and African Literature in Translation: Brazilian Literature (5)
46. Brazil and Portuguese-Speaking World (5)
89. Honors Seminars (1)
- 89HC. Honors Contracts (1)
- T99. Student Research Program (1 to 2)
- Upper Division Courses
- 100A. Phonology and Morphology (4)
- 100B. Syntax (4)
- 130A. Introduction to Literature in Portuguese (4)
- 130B. Introduction to Literature in Portuguese (4)
- 141A. Literature and Film in Portuguese (4)
- 141B. Film, Television, and Society in Brazil (4)
- 141C. Documentary Film (4)
- 142A. Brazil and Its Culture (4)
- 142B. Brazil and Portugal in Comparative Perspective (4)
- 142C. Travel Narratives, Testimony, Autobiography (4)
- 143A. Colony, Intellectuals, and History (4)
- 143B. Transatlantic Literature in Portuguese (4)
- 143C. Modernism, Modernity, and Identity (4)
- 143D. Contemporary Literature in Portuguese (4)
- 187FL. Special Studies: Readings in Portuguese (2)
189. Advanced Honors Seminars (1)
- 189HC. Honors Contracts (1)
191. Undergraduate Variable Topics Seminars: Portuguese (4)
197. Individual Studies in Portuguese (2 to 4)
199. Directed Research in Portuguese (2 to 4)
- Graduate Courses
- M200. Research Resources (4)
- M201A. Literary Theory and Criticism (4)
- M201B. Literary Theory and Criticism (4)

202. Synchronic Morphology and Phonology (4) (p.9)
- 204A. Generative Grammar (4)
- 204B. Generative Grammar (4)
- M205A. Development of Portuguese and Spanish Languages (4)
- M205B. Development of Portuguese and Spanish Languages (4)
227. 19th-Century Portuguese Literature (4)
232. 19th-Century Brazilian Literature and Culture (4)
233. Machado de Assis (4)
- M249. Folk Literature of Spanish and Portuguese Worlds (4)
- M251A. Studies in Galegan-Portuguese and Old Spanish (4)
- M251B. Studies in Galegan-Portuguese and Old Spanish (4)
252. Studies in Early Portuguese Literature (4)
253. Studies in Modern Portuguese Literature (4)
254. Studies in Early Brazilian Literature (4)
255. Studies in Modern Brazilian Literature (4)
- 256A. Studies in Portuguese Linguistics (4)
- 256B. Studies in Portuguese Linguistics (4)
290. Special Topics (4)
370. Teaching Portuguese in Secondary School (4)
375. Teaching Apprentice Practicum (1 to 4)
596. Directed Individual Study or Research (4 or 8)
597. Preparation for Graduate Examinations (4 to 12)
598. Research for M.A. Thesis (4 to 12)
599. Research for Ph.D. Dissertation (4 to 8)

教員の構成

CORE FACULTY

Adriana Bergero Professor 20th C Latin American Culture Urban Cultural Geography

Héctor Calderón Professor Chicano and Spanish American Literature Mexican Popular Culture

Michelle Clayton Associate Professor Joint appointment, Comparative Literature 19th-20th C Poetry, Avant-Gardes

Verónica Cortínez Professor Colonial Spanish-American Literature Chilean Film

John Dagenais Professor Medieval Castilian, Catalan, and Galician Lit Hispano-Latin manuscript culture

Barbara Fuchs Professor Joint Appointment, English Golden Age Literature

Randal Johnson Distinguished Professor Interim Vice-Provost, International Studies Brazilian

Literature and Culture, Film (p.10)

Efraín Kristal Professor Joint Appointment, Comparative Literature 19th-20th C Latin American Fiction, Aesthetics

Jorge Marturano Assistant Professor Latin American and Caribbean Lit Cultural Studies

Anna More Associate Professor Colonial Latin America Cultural and Intellectual History

Claudia Parodi Professor Spanish Linguistics

José Luiz Passos Associate Professor Portuguese & Brazilian Literatures 19th-20th C Intellectuals, the Novel

Susan Plann Professor Joint appointment, Applied Linguistics Service Learning

A. *Carlos Quícoli* Professor Portuguese Linguistics

Teofilo F. Ruiz Professor Joint appointment, History Medieval, Early Modern Europe

Jesús Torrecilla Professor 18th-19th C Spanish Literature Nationalism, Marginality, Post-Colonialism

Maarten van Delden Professor and Chair Mexican Studies 20th C Spanish American Literature

Maite Zubiaurre Professor 19th-20th C Peninsular Literature Gender Studies

LECTURERS

Juliet Falce-Robinson Director of the Language Program

Tomas Creus Leitor, Ministry of Foreign Relations, Brazil

Victoria West Lecturer in Spanish

Luz Maria de la Torre Lecturer in Quechua & Spanish

Maria Victoria Abad Rabat Lecturer, Ministry of Foreign Relations, Spain

Nuria Dordal Homs Lecturer in Catalán

Sarah Bederman Lecturer in Spanish

Alison Stewart Lecturer in Spanish

Tri C. Tran Lecturer in Spanish

2. **Paulo Coelho, *Onze Minutos*** (英・西・葡の3言語を比べてみると、、、)

P) Era uma vez uma prostituta chamada Maria.

S) Érase una vez una prostituta llamada Maria.

E) Once upon a time, there was a prostitute called Maria.

P) Um momento. “Era uma vez” é a melhor maneira de começar uma história para crianças, enquanto “prostituta” é assunto para adultos.

S) Un momento. “Érase una vez” es la mejor manera de comenzar una historia para niños, mientras que “prostituta” es una palabra propia del mundo de los adultos.

E) Wait a minute. “Once upon a time” is how all the best children’s stories begin and “prostitute” is a

"Department of Spanish and Portuguese" という概念は日本の大学でも可能か？

word for adults.

P) Enquanto o príncipe encantado não aparecia, só lhe restava sonhar.

S) Mientras el príncipe encantado no aparecía, lo que le quedaba era soñar.

E) While she was waiting for her Prince Charming to appear, all she could do was dream.

3. 日本人学生にとっての戦略は？

○外語大系の専攻語としてのスペイン語・ポルトガル語 vs. 総合大学での教養語学としてのスペイン語・ポルトガル語

○日本語（母語）→英語（国際語？あらゆる分野で必要？勉強して損はない？）→第2の外国語（各自の関心興味、研究・職業上の必要性？）→第3の外国語

○複数の外国語を使う喜び

○複数の言語を学ぶ→翻訳（言語の翻訳から文化の翻訳へ）



河野 彰 教授

総合テーマ：「在日外国人の現状～大学ができることは・・・～」

(2013年3月30日 名古屋大学 全学教育棟406)

講師とテーマ：

* 渡辺マルセロ (NPO Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとう代表)

「外国人支援のこれから～多様な若者が輝ける社会をめざして～」

* 松本里美 (NPO シェイクハンズ代表)

「多文化な子ども達との日々～犬山・小牧での活動から～」

総合司会：水戸博之 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科教授)

ファシリテーター：重松由美 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科 学術研究員)

寺澤宏美 (名古屋大学非常勤講師)

NPO 紹介：

*NPO Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとう

<http://youth-conpeitou.blogspot.jp>

岐阜県には、文化や言語など多様な背景（ミックスルーツ）をもつ子どもが増えています。彼らが活躍できる社会づくりを進めていくことは、地域社会の活性化に大きく貢献すると考えられます。そこで、この法人は、岐阜県住民に対して、地域社会を核とした新しい国際協力モデルに基づく、社会貢献できる人材育成に関する事業、平等で豊かな地球市民社会の実現にむけた次世代育成についての啓発、活動地域および活動地域に暮らす住民にかかわる伝統・文化・歴史の継承、またこれによる地域社会の活性化及び住みよいまちづくりに寄与することを目的としています。

***NPO シェイクハンズ**

<http://shake-hands.jp/index.html>

国際理解・協力・多文化共生社会づくりに貢献することを目的としている団体です。まちづくりの一環として、日替わりシェフのレストラン、フェアトレード SHOP も運営しています。在住外国人支援としては、犬山市の公立中学校に通う子供たちの学習支援などを行い、「国籍や民族に関係なく、誰もが暮らしやすい社会」を目指して活動しています。

* * *



“Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとう” のみなさん

本講演は、科学研究費補助金（基盤研究 C）「スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の外国語教育と相互理解の諸相」（課題番号 22520559）と科学研究費補助金（基盤研究 C）「在日（経験のある）ブラジル人高校生と大学生のアイデンティティとことばとの関係」（課題番号 24520461）による共同開催である。

「外国人支援のこれから

～多様な若者が輝ける社会をめざして～

講師：渡辺 マルセロ

(NPO法人 Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとう代表)

文化や言語など多様は背景（ミックスルーツ）をもつ子どもが活躍できる社会づくりを進め、さらに地域社会の活性化に貢献しようと岐阜県で活動されている NPO 法人 Mixed Roots x ユース x ネット★ こんぺいとう代表の渡辺マルセロ氏が、岐阜県における外国人の若者の現状、団体の活動紹介、そしてご本人の体験や法人としての経験から多文化共生に関して「大学ができること」について意見を述べられた。

➤ 「日本で働くということ」

中卒で工場勤務すると時給 1,600 円で 1 日 12 時間、1 カ月 26 日間働くと月給 50 万になる。一般企業の会社員の大卒の月給が 20 万円だとすると、とてもいい給料になる。しかし、現状は厳しい。妹の友人の話であるが、会社は明日の注文を今日するため、朝の 10 時まで働いて、午後の 2 時に出勤時間のメールが送られてきて、4 時間寝て 18 時に出勤する。注文数が多いと残業することになり、16～18 時間勤務の日もある。注文が少ない日が休日となる。長時間働くことは自分が望んだことではなく、会社から強制的に決められたことであり、残業を断る人はいらぬといわれる。このような労働環境で日本語を勉強して、よりよい労働条件の職場に行くことは難しい。

➤ 特定非営利活動法人 MixedRoots×ユース×ネット★こんぺいとうの設立

15 歳から 19 歳までの在学している割合は外国人が 48.7%、日本人のデータはわからないが、総数では 87.3%であることを考えると、高校や大学へ行かない外国人は多いと言える。この現状を何とかしたいと思い、NPO 法人 MixedRoots×ユース×ネット★こんぺいとうを作った。法人名には、「こんぺいとう」のように日本文化に溶け込んだ存在になりたいという意味が込められている。メンバーは、先生や同級生に恵まれたことから、大学に進学し、社会人として生きてきた少し先輩の僕たちであり、同じような環境にいる子どもたちに困難を乗り越えるモチベーションを持ってもらいたいと思い、活動を始めた。

活動の1例

美濃加茂市にある加茂高校定時制は40%が外国人ですが、昨年サッカー部を立ち上げて、メンバー20人中18人がブラジル人、1人がアルゼンチン人、1人が日本人です。全国大会に出場したが1勝もできずに、今年は1勝することを目指しています。こんぺいというメンバーの一人であるカルロスが環太平洋大学 (IPU) の教員であることから、オープンキャンパスに学生たちを呼び、サッカーの交流試合をおこなうことを考えました。資金調達のために「ジャストギビング」のサイトを使い、バス代の寄付を募った。1週間ぐらいで15万円の寄付が集まり、各自が3000円位を払い、実現できた。サッカーの試合をし、そのあとで地元のJリーグの選手も来てくれた。学食でいっぱい食べた。翌日、ジムなど施設見学をし、スポーツも頑張れる大学であると説明を聞いた。最後に、カルロス先生が「自分は定時制出身でだが、工場勤務の給与を学費に投資し、途中で何度も車を買おうかと挫折しそうになってが、今思うととてもよかったと思う」という話をした。学生たちは、定時制ではいまいちだと友だちに言われるけれど、カルロス先生のようになれると希望をもった。

今後は、子どもたちは大学へ行かないと成功できないと思っているので、運動ができる子にスポーツではなくてもスポーツ選手を助ける職業などに就ける可能性があることを知ってもらうために、関連する職場の見学を計画している。



➤ 寄付つき県産品「ぎふ-to」の販売

熊本に行ったとき現地の美味しいものをたくさんいただいたが、岐阜のことを聞かれたときに岐阜の特産品を答えられなかった。岐阜の文化を知らないと思った。

特産品を支える仕組みには、

- ・文化があること
- ・産業があること
- ・生活で使っていること

のバランスが必要である。

日本にはお歳暮やお中元の文化が残っているが、岐阜県民は地元への愛着が少ないため、岐阜の特産品を贈ることが少ない。全国で有名なものを送るので、岐阜県のもものが売れない。岐阜のもものが売れば、地元企業も市民生活も活性化し、また私たち外国人がやっている団体が活動すれば、「地元のことを考えてくれているんだな」と思ってくれる。この活動はお金にはならないが、外国人に対するイメージアップにつながると考えた。地元のギフトショップの社長の賛同を得て、売り上げの5%を寄付してくれることになった。地元のギフトショップで流通しているのは4品のみであった。

商品番号-2 3,150円
 御代櫻ライン漬 1,050g
 御代櫻醸造株式会社



自社製造の酒粕を使用するので、風味も抜群。厳選した国産青瓜を使用し、御代櫻の香味豊かな上質の酒粕で幾度も漬け替えました。自然の風味を活かした手造りの瓜の粕漬けです。香り高い風味とハリッとした歯ごたえは、お茶うけや酒の肴にぴったりです。CBCの『イッポウ』でも紹介されています！

美濃加茂 代表!!!


商品番号-1 2,562円
 福来純三年熟成みりん 1.8L
 白扇酒造株式会社



八百津 代表!!!

飛騨古川産の優良もち米「たかやまもち」と、おなじく「ひだほまれ」を使って手作業で造られた「米麹」、そして「米焼酎」の3つの原料のみで造られた本みりんは、江戸の昔から美濃で寝酒として甘党にも愛飲されてきました。その昔から変わらない伝統的な手法で90日仕込み、熟成に3年かけた旨みたっぷりの琥珀色のみりんは、3年の熟成の時を経て、深みのある甘みと複雑なうまみがかもし出されます。化学調味料や食品添加物は一切不使用。調味料としてはもちろん、食前酒や食後酒としてもご利用いただいています。TV『満天☆青空レストラン』でも紹介されています！

商品番号-3 3,170円
 蜂屋柿かすてら (3個セット)
 丸福堂



新商品!!!

熟練の手作りかすてらの製法、肥沃の大地に育まれた蜂屋柿を洋酒で漬け込み加えました。ほどよい香りと上品なお味のちよつと贅沢なかすてらです。天然ビタミン・ミネラルをたっぷり含んだ柿の葉をそのまま使った柿茶ブレンド、食物繊維・ミネラル等がバランスよく含まれた食用ショコラ、ふんわりとした柔らかな甘さとなめらかなキャラメルミルクの3種類のかすてらをご用意しました。新商品です！

商品番号-4 2,350円
 東白川ジャム・トマトジュースセット
 株式会社ぐるさと企画



空気のきれいな山あいの地で、農家の皆さんが丹精こめて育てたトマト。その名も「桃太郎」。完熟のうまさ、そのまま搾ったジュースです。調味用に塩分をほんの少し加えただけ。水はもちろん、着色料や保存料などの添加物をまったく使っていないピュアなジュース！独特のトロミのあるのと越しと、一本一本ボトルごとに異なる色合いはその証拠。朝の食卓に、美容と健康に…ご家族そろって美味しくお召し上がりいただけます。

東白川 代表!!!

試験的に 100 セットを目標にしていたが、始めたのが11月だったので売れたのは50個だった。その売り上げは、岐阜県民ブラジル移民100周年記念の冊子に使った。1913年3月30日に岐阜県民が初めてブラジルへ渡ったことから、今年がちょうど100周年にあたる。今後は、学校やワークショップで冊子を配り、どうして隣にブラジル人やフィリピン人やペルー人があるのか知ってもらおう。また、外国人の子ども自身にも自

らのルーツを知ってもらいたい。将来的には、海外で販売し、海外にルーツを持つ若者が仕事としてできるようになると面白いと思う。

▶ 大学に望むこと

外国人の子どもは大学卒業後の自分の未来が見られない。実際に、大学を出て工場で働いている子がいるため、大学に行く意味が見いだせないでいる。大学に対してワクワク感が抱けない。そのために、大学がどういうところか知ってもらうためにオープンキャンパスをおこなうのもいい。また、留学生とデカセギは別物扱いされているが、留学生も地元の子もたちと触れ合うことにより、学ぶきっかけとなる。フィールドワークに出ってもらうのもありがたい。

日本の学校を辞めた子どもたちは、日本で不良をやった後にブラジルへ帰るといいうが、帰国後に話を聞くと、「やっぱり勉強した方が良かった」と思い始め、ブラジルで高校卒業認定試験を受け、大学に入学したり、会社に入っている子がいる。日本はやり直しがしづらい社会で、難しいものだと思っている。中卒でも、高卒でも、勉強をしたいと思った時に学校に戻れる再チャレンジできるシステムをつくってほしい。就職後も、大学の夜間で勉強できることが当たり前だという雰囲気をつくってほしい。僕も、ブラジルの通信制の大学院で学ぼうと考えている。

そして、大学生がフィールドワークに出る際に大学が助成金を出してくれるといい。

<質疑応答>

・大学院生（質問者）

「こんぺいとうが関わっている高校生のなかで第二世代といわれる割合は？」

・渡辺氏

「岐阜県の場合は、半分強が日本生まれ。現在の高校生は、小さい頃に来た子が若干多いかもしれない。」

・大学院生（質問者）

「ブラジル生まれと日本生まれの第二世代に違いはあるか？」

・渡辺氏

「個人的にはわからないが、学習支援のボランティアの話によると中三の子は日本生まれが多い。その前の世代は、8歳か9歳か10歳くらいで来て、苦労して日本語を学んだ子はガッツがある。けれど、日本生まれの子は日本人と同じように苦労なく日本語を話せるため、努力してマスターした雰囲気がない。でも、学習言語が弱い。授業についていけないけれど淡々と進級してきた子は、中学に入ると問題が顕著化してくる。」

・大学の教員（質問者）

「学校の教員や教育委員会との連携は？」

・渡辺氏

「こんぺいとうの活動を加茂高校が応援することは難しい。実際には、個人的に知っている子呼んで、親の同意書と本人からの申し込みで合宿に連れて行った。」

・大学の教員（質問者）

「卒業生として、学校で話をすることはあるか？」

・渡辺氏

「学校や保護者会で話をするのは多い。担当する教員が地域交流に興味がある人だと呼ばれるが、担当が変わると呼ばれたり呼ばれなくなる。人間関係をいちから築くことは大変だ。情報の共有などカリキュラムが整備されるといい。また、日本語教室の取り出し方にも問題がある。」

・大学院生（質問者）

「第二世代の子たちは何語でコミュニケーションをとっているか？日本語？ポルトガル語？混用？」

・渡辺氏

「混ざっていると思う。でも、彼らのポルトガル語はしっかりしているし、両国の文化を評価している。自分の場合だと、どちらかの文化を否定する時期があった。自分の祖父が移民でブラジルへ行ったことや、父親がデカセギできたことに、劣等感というか重い感情をもっていた。」

・大学の教員（質問者）

「どのようにアイデンティティ危機を乗り越えたのか？」

・渡辺氏

「自分が来日したころは、デカセギが始まったばかりで、小学校は1学年下げて入った。祖父から「としゆき」という日本名をもらっていたので、担任の先生の配慮でその名前を使った。見た目も日本人であったので、ブラジル人であることを説明することがだんだん面倒になり、隠したいと思うようになった。親ともポルトガル語で話さなかった。」

危機を乗り越えたきっかけは、大学生の時に一時帰国したことだと思う。頭の中のブラジルと実際のブラジルは同じだったけれど、ブラジルの良さを肌で感じて、帰国後にポルトガル語を使うようになり、少しずつ受け入れるようになった。やはり、自分のルーツに誇りをもてることが重要だと思う。」

（ファシリテーター 重松由美）

「多文化な子ども達との日々～犬山・小牧での活動から～」

講師：松本 里美

(NPO シェイクハンズ代表)

特定非営利活動法人シェイクハンズは、愛知県犬山市を拠点に同市内および近隣の小牧市などで活動を展開している。

犬山市は愛知県の最北端に位置し、名勝・木曾川、国宝・犬山城などの観光資源に恵まれた古い町である。小牧市・春日井市、岐阜県可児市など外国籍住民が数多く居住する都市と隣接しているが、何代にもわたって居住する人が多く、1990年の入管法改正によって豊田市など愛知県の多くの自治体で外国人が急増した時期にもほとんど影響を受けなかった。したがって同市における「国際化」は外国の姉妹都市との友好が中心で、いわゆる「内なる国際化」は進展していなかった。ブラジル人やペルー人など日系南米人の居住地域が愛知県北部へと移り始めたのは2000年前後であるため、犬山市は外国人集住地としては後発隊であるといえることができる。

松本さんは1998年頃から犬山市国際交流協会でもボランティア活動を開始、国際理解・協力やまちづくり活動に参加し、発展途上国の子ども達にリサイクルピアノを贈る活動や異文化を知るワークショップなどを開催してきた。2005年頃に外国籍の子ども達に出会い、交流を通じてその現状を知り、多文化共生を目指す非営利グループ「シェイクハンズ」を結成して2009年に法人化した。

今回の講演では、犬山市在住の外国籍の子ども達の現状と、多文化共生をめざす「シェイクハンズ」の活動について説明している。

1. 犬山市の外国人

2011年末現在、愛知県の外国人登録者数は東京都、大阪府に次いで3位。犬山市は愛知県内54市町村の中で22位(1852人)。県内5位の小牧市と比べれば住民に対する外国人の割合は少ない。犬山市の外国籍住民はフィリピン、ペルー、中国、ブラジル、韓国・朝鮮の順で、ブラジル人が最多でないことが特徴となっている。約8割が主に羽黒、楽田地区の県営住宅に集住する。就職先は犬山市のほか、近隣の小牧市、春日井市、岩倉市、美濃加茂市などが多い。

外国につながる子ども(0～14歳)は愛知県においては14,626人、うち日本語指導が必要とされる義務教育年齢の子どもは6,300人で全国で第1位である(2009年12月現在、愛知県)。犬山市においては、約120人のうち93人(父親が日本人もしくは日本国籍の子どもは含まない)が地域の公立小・中学校(楽田小、南部中、羽黒小、南小の順に多い)に通学している(2011年、市教育委員会)。また、24人が公立未来園に、1

人が私立幼稚園に通園している（2010年12月、シェイクハンズ調べ）。

子どもが使用する言語はスペイン語（ペルー、ボリビア）、ポルトガル語（ブラジル）、英語（フィリピン）、中国語の順で多く、スペイン語が半数以上を占めるのは犬山市の特徴である。また、フィリピンの子どもの母語は、必ずしも英語であるとは限らないことが日頃の交流を通じて理解されている。

2. 母国とは違う環境の中で暮らす子ども達の現状

- ・母国語と日本語の「ダブルリミテッド」状態
- ・複雑な家庭環境
- ・親の仕事の都合での頻繁な転居
- ・学校での居場所がないなどから不登校・非行に走りやすい
- ・日本語を解さない親との断絶
- ・貧困から、学習環境が整わない
- ・帰国か？先の見えない中で、将来の予測が全くできない
- ・宗教上の違い・文化の違いから、地域社会に受け入れられない
- ・発達障害があっても見過ごされることが多い（判断がいつそうむずかしい）
- ・DV、ネグレクト＋無国籍状態、不就学・未就学、若年労働

3. NPOができることとは？現在の活動

外国人が集住する楽田地区の「楽田ふれあいセンター」を拠点に、日本語教育、母語教育、日本人の異文化体験・理解、外国人の日本文化体験などを実施。

1) おかえりなさい塾 木曜日午後

小学生は学校まで迎えに行き、「塾」まで連れてくる。宿題や遊びを通じて日本語学習につなげる。親の共働きが多く、家に帰っても誰もいないことが多い子ども達のための「放課後の居場所づくり」も目的のひとつ。料理の得意な外国人の母親がおやつを差し入れするなどの交流も増えた。

2) みんなの日曜塾

日曜日の朝、親子で一緒に来館して子ども達が日本人講師のもとでスペイン語を学習する間、親はひらがなや簡単な漢字、病院やスーパーなどで使える実践的な日本語会話を学ぶ。

3) 寺子屋 月・火・金・土曜 シェイクハンズ「寺子屋」

日常的な学習や日本語学習を進める。中学生については高校進学を視野に入れている。

4) プレスクール 金曜 楽田子ども未来園

年長児の日本語学習。歌や遊びを通じて日本語を学ぶ。小学校入学を視野に入れる。未来園との情報共有、問題解決への援助

5) プレスクール2部 土曜 シェイクハンズ「寺子屋」

幼児と親の日本語学習

6) らくだサロン 木・土曜 シェイクハンズ「寺子屋」

コミュニケーションの苦手な子どもの学習・生活習慣指導（予約制）

このほか、「犬山市子ども大学」の国際理解講座の一環として、外国籍の子どもと地域の日本人の子ども達が1泊2日で合宿を行い、ダンスや花火、流しそうめんなどのイベントを通じて互いの文化を体験し、理解し合うことを目的とした宿泊交流会を毎年8月に開催している。2012年には子ども達の親、地域の大人たちや学生たちなど12団体、54人の外部ボランティア、自治体25人の計79人が参加し、楽しい時間を共有した。シェイクハンズではこうしたイベントを「多文化共生の種まき」ととらえている。

4. 基本的な考え方

1) どの子ども同じ子ども

国籍・置かれている環境に関係なく、教育を受けられ、将来に向かって夢を持って生きていける環境を作りたい。「子どもは大切な世界の宝」

2) 親とともに長期滞在化・定住化が進む子ども達

犬山で生まれた子・犬山で育った子⇒犬山が（第二の）ふるさと＝同じ地域の子

外国人住民だけでなく、すべての地域住民が暮らしやすくするために、多文化共生社会の地域づくりが急務

3) 1人・ひとつの組織だけではできない。多くの人・組織に支えられている

「立場の弱い子ども達を地域で育む寺子屋」活動

市内の他のNPOと協力、学校・未来園との提携、地域のコミュニティとの連携など子ども・若者を取り巻くさまざまな問題が、各分野の方々との連携の中で解決に向かうことができるよう、poco a poco（少しずつ）進めていく。

◇シェイクハンズの活動について

松本さんが紹介されたように、シェイクハンズの活動は地域の学校やコミュニティとの関係に大きな特徴がある。たとえばペルー人児童が多い楽田小学校と連携して、平日に休みが取れず学校との接点が少ない親たちのために、「日曜塾」に学校長と取り出し授業クラス（バモス学級）の担当教諭を招いて学校行事の概要を説明したり、就学前の未来園年長児に「小学校1日体験入学」を行うなどの活動を展開している。長い歴史を持つ犬山市は、全体として見れば外国人との共生に慣れているとは言いきれないが、楽田地区については「ふれあいセンター」を核として新しい風が吹きはじめていると感じられる。

日本あるいは地域の社会、文化、慣習などになじまず、溶け込まない外国人を排除するのではなく、「知らないことは教えてあげよう。同時に外国のことも知ろう」とする

シェイクハンズの姿勢は活動の随所に見ることができる。たとえば、子どもが親の作る出身国風の弁当を学校に持っていくことを恥ずかしがる、日本風の弁当を持たせないといじめられるのではと親が思っているなどの現状をふまえて、おにぎりや寿司、卵焼きなどの定番のおかず、栄養や彩りを考えたお弁当作りで日本の日常生活の一端を学ぶというイベントがあり、一方で中国人やペルー人から、本場の料理を日本人のお母さんたちが習う会もある。外国人がいつも何かをしてもらったり、教えてもらうだけの立場でないことに意味があると思われる。

外国人が数百人という規模で一地区に集住している犬山市ならではの、シェイクハンズの今後の活動に注目したい。

(コメンテーター 寺澤宏美)

* * *



渡辺 マルセロ 氏



松本 里美 氏

“Un encuentro entre Asia y América Latina en el desarrollo humano”
--- Actividad de la ACCA (Acción Cumidad Coalición Asiática) ---

(Universidad de Nagoya, 13 de julio del 2013)

Ponente:

Dr. Eduardo Jorge Anzorena (S. J.)

Breve Curriculum

- En 1930 nació en Buenos Aires, Argentina.
- En 1973 obtuvo el título como Doctor en Ingeniería (Arquitectura) de la Universidad de Tokio.
- De 1970 a 1999 fue Profesor en el departamento de letras en la Universidad de Sofía en Tokio.
- En 1994, fue galardonado con el premio *Magsaysay* (por su labor en el entendimiento internacional).
- Desde 1976 hasta la actualidad se dedica al mejoramiento de la calidad de vida de la gente de bajos recursos en términos de vivienda.
- Actualmente se desempeña como director del SELAVIP (Servicio Latinoamericano, Africano y Asiático y de Vivienda Popular).

Referencia

- * Ramon Magsaysay Award Foundation (“Awardees”: Profile, Biography, Media)
<http://www.rmaf.org.ph/newrmaf/main/awardees/awardee/profile/153> .
- * “Father Jorge Anzorena” (entrevistas en inglés)
https://www.youtube.com/watch?v=fU_F_k0vNjY
<https://www.youtube.com/watch?v=LbfucneieRw>

Jorge Anzorena SJ

13/07/2013

RESUMEN:

En septiembre del año 2000, convocados por las naciones unidas se reunieron los representantes de 189 países del mundo, y aprobaron las metas del desarrollo para este Milenio para erradicar la pobreza antes del año 2015. Estamos acercándonos a esa fecha y la pobreza aún se mantiene en muchas partes del mundo.

Recientemente una revista de fama internacional “*Environment and Urbanitation*” indicó que al aprobar las metas no se mencionaron 1) las reformas institucionales necesarias para lograr esos objetivos y 2) la importancia de la participación de las “*grassroots*” organizaciones y de los gobiernos locales.

Ese vacío lo llena las actividades de “ACCA” (The Asian Coalition Community Action).

I. Introducción.

II. ACCA (Acción Comunidad Coalición Asiática).

Muestra la posibilidad de mejorar los barrios pobres (slums) en una escala grande, poniendo a las organizaciones en el centro y apoyando sus actividades.

III. Comenzando con pequeños proyectos, la mejora se extiende a toda la ciudad.

El programa ACCA ayuda a que los habitantes del barrio resuelvan sus problemas por ellos mismos. Hasta ahora en 19 países Asiáticos se han realizado 1185 pequeños mejoras y 111 proyectos de viviendas. Muchos gobiernos locales se han sorprendido por lo que hacen las comunidades pobres y comienzan a ayudarles.

IV. Financiación.

El grupo comienza a ahorrar. Con las pequeñas subvenciones se van formando las CDF (Fondo de Desarrollo Comunitaria)

“Un encuentro entre Asia y América Latina en el desarrollo humano”
--- Actividad de la ACCA (Acción Comunidad Coalición Asiática) ---

- V. Colaboración con los gobiernos locales.
- VI. Las comunidades que evalúan cada proyecto aprenden para construir su propio proyecto.
- VII. La comunidad trabajando junta forjan su futuro.
- VIII. CAN: Community Architects Network / Red de Arquitectos Comunitarios. Los jóvenes arquitectos ayudan técnicamente a la comunidad para que sus miembros puedan resolver los problemas por sí mismos.

* * *



Conferencia del Dr. Eduardo Jorge Anzorena (S.J.)

Hace años no hablo español, pero lo que hoy quería mostrar es, más o menos, lo que he vivido en los últimos años. Yo llegué aquí al Japón en el año 1960. Entonces aquí terminé los estudios de arquitectura, y este estudié los estudios de religiosa, etc.

Cuando yo terminé los estudios de arquitectura, teníamos una especie de reflexión por un año en Europa. Y entonces después, ya mis amigos decían, bueno, cómo es, como decía el profesor. Mito, hay dos mundos, un mundo muy rico, un mundo muy pobre. En el medio hay el mundo de la clase media.

Es un poco de egresión, pero hace una semana, en la sociedad de arquitectos de Japón. Tuvimos una discusión con el Prof. Hosaka y con otros profesores, muy buenos arquitectos sobre la relación de la pobreza en Asia y en Japón. Y las relaciones que unos de los arquitectos decían, que en mucha parte del mundo, la clase media se va disminuyendo. Había una clase media baja, eran trabajadores que tenían trabajo formal, que están desapareciendo. En América, pues la parte, esos trabajadores de la clase media ahora no tiene trabajo; en Europa también.

Aquí también ahora en Japón una tercera parte de los trabajadores son frita¹, que es la tercera parte de todos los trabajadores que tienen solamente un salario mucho menor, y que no pueden tener una familia ni tener departamento etc. O sea este arquitecto decía que el mundo en este sistema, poco a poco a ver la gran cantidad de gente muy muy rica, y una gente pobre que va a aumentar a máximas. Sobre esto es lo que voy a hablar hoy en cuál ha sido el proceso en estos últimos años.

(3:15)

Fíjese en las Naciones Unidas, esto es las Naciones Unidas en Nueva York, el año 2000, las Naciones Unidas llamaron a todos los presidentes, jefes de estado para tener unos, cuál sería la finalidad de este nuevo milenio, cuando piensan en (las problemáticas sociales d)el tercer milenio. Y decían el desarrollo de este milenio cuáles son.

Y fundamentalmente arregla el escrito es terminar la pobreza parando en el 2015 dentro de dos años. Y eso fue llamado.

Esta es una fotografía de este tiempo en que 189 jefes de estados aprobaron esos “*Milenium Developing Goals (Objetivos de desarrollo del milenio)*”, en ese momento no sé si se acuerdan que figuran el primer ministro era Mori, después Castro, estaba Putin, estaba el de China, un francés, otros muchos. Todos los jefes de estados decidieron eso sí, “lo vamos hacer” En estos fundamentales principios se olvidaron de hacer cambio de la estructura de los países.

¹ frita: estar en una situación difícil sin salida.

Y eso, hay dos cosas que hoy voy a hablar más. Es, si queremos hacer transformaciones en la sociedad, es muy importante, no solamente qué el jefe de estado piensa, que haga grandes ideas, sino que la gente pobre, los ciudadanos tienen que participar. Es algo que prácticamente omitieron. Y después, otra, la segunda parte, no solamente el jefe de gobierno nacional, sino los gobiernos locales, son los que tienen que incrementar la política, y esos dos elementos, no fueron muy mencionados.

(6:05)

Estamos a dos años por terminar. Y hay más de mil millones de gente que están en extrema pobreza. Generalmente, esto es en Filipinas, los pobres, el gobierno no los quiere ver, eso, en todos los países del mundo no los quieren ver. Cuando hay muchos pobres a los que quieren sacar. Si hay pobres en las calles que no tienen casa, pues, sacarlos, entonces, si no se ven, es mejor.

Esta señora, es Rubí, es filipina. Ella es también un dirigente de pobres. Nosotros somos pobres. Vivimos en lugares de tanto en lugares miserables e ilegales. Nuestra comunidad donde vivimos, son contra las leyes, nuestros trabajos no son legales. Tomamos así por todas las partes del mundo, en Filipinas, por lo que dicen, en toda Latinoamérica, en África. Cuando usamos agua y electricidad, todos son ilegales. O sea básicamente, la sociedad, el gobierno y la sociedad no tienen confianza en ellos, y ellos son ignorados. En este trabajo, les quiero mostrar qué es lo que hemos tratado de hacer en estos últimos años.

Fíjese, cuando yo estuve estudiando aquí en Japón, o sea terminé doctorado en arquitectura. Entonces tuve la oportunidad de ir a Europa. Estuve... Ustedes conocen a Madre Teresa. Entonces estuve ahí en uno de los lugares, que ella estaba recogiendo la gente que estaban moribunda en las calles. Estuve un mes con ellos. Para mí fue una especie de... Una experiencia muy impresionante.

¿Por qué? Yo he estudiado arquitectura, un especialista, con un doctorado. Pero yo no podía hacer, qué es lo que puedo hacer para esta gente muriendo en la calle, sin nada de trabajo, de cariño, de olvidados así en el medio de suciedad de la calle. Entonces yo estaba enseñando en la universidad, y yo seguía hasta los 70 años en la universidad de Sofía. Seguí, yo digo, estaba tratando en lo posible tener contacto con ese mundo. Porque digo, son parte de nuestro mundo, en el cual, si no estamos juntos, la gente va a terminar muriéndose en la calle a solos abandonados por la familia, por todos.

Entonces este busqué y el final del proyecto, cual es, vendría de, por dos o cuatro años fue en distintos lugares de Asia, en lugar, qué es lo que estaba haciendo la gente pobre para mejorar su vida y para mejorar su habitación y etc. Y así empecé

(10:17)

De hecho, pues, es lo más importante fue ir conociendo a la gente, esos profesores

como tenían amigos de aquí, fui visitando las ciudades; quiénes son la gente que estaba en el grupo, que están trabajando, etc. Eso fue hace 35 o 36 años. Entonces cuando vi a ellos y escribí sobre ellos, tenía una revista especial que dos veces al año la publicaba y entonces a todos los grupos con los que yo tenía contacto se la mandaba. Entonces poco a poco estos grupos se empezaron a conocer, qué los grupos estaba haciendo, qué grupo iba a hacer. Entonces empezaron a tener interés y visitarlos. Poco a poco hasta el año 1988, decidieron hacerse una reunión, que es una comisión o *community*, que es “*Housing Rights*”. Entonces empezaron a tener contactos muchos, ayudándose, y grupos dando información de la cosa que iban haciendo.

Este grupo fue desarrollándose y hace unos... en 2009, hace 4 años. Como un trabajo es muy impresionante, gobiernos o, por ejemplo. Bill Gates empezó a dar dinero para tratar de seguir a apoyar este proyecto. Entonces lo que se comenzó en 2009, 19 países de Asia; África es otra historia. Comenzarían a tener y ayudar a los grupos a hacer algo que tenía una especie de centro, que los proyectos estarían centrados no en la idea de la ONG, de hecho, por ejemplo, sino es cuál era la necesidad de la gente, que la gente fuera el centro del proyecto, qué ellos dijeran, qué eran las necesidades, que ellos decidieron cuál era el proyecto, que ellos implementaran el proyecto, y que ellos seguían avanzando.

(13:20)

Y nos hemos dado cuenta poco a poco, qué posible, o sea, no solamente pequeños proyectos, sino mejorar grandes cantidades de personas y comunidades, si es la comunidad, la gente es la que va dirigiendo el proceso. Yo no les digo que hagan esto o pongan agua, lo que sea. Sino que ellos viendo las necesidades, lo más urgente, empiezan con algo pequeño, pero ellos son los que comienzan.

En las fotografías todas actividades mucho en casi todos los países de Asia. Esta es la... en 2009, o sea, tienen desde la parte del oeste estamos así en Paquistán, Afganistán, India, Sri Lanka. Todo los países, en Japón, hay problemas y proyectos en Fukushima, *South Korea*, Mongolia, incluso en *Fiji Islands*.

La “*Gates Foundation*” primero mandaron un grupo para investigar las cosas que estamos haciendo. Entonces les pagaron un millón solamente para investigar eso. Y después han apoyado; son 11 millones de dólares, por este programa, siguen ayudándolos.

Lo que voy a empezar ahora a explicar es empezando por pequeños proyectos en la ciudad. Comenzar a extender a distintos lugares, a toda la ciudad. O sea que el proyecto es cuando una comunidad quiere hacer algo dice, “Primero nosotros los vamos a ayudar el proyecto, pero ustedes tienen que determinarlo, o sea, llaman esto, por ejemplo en Cambodia la comunidad tiene, entonces, van discutiendo qué cosa tienen. Muchas veces que están en lugares

bajos, para llegar a casa, se tienen que ir con agua hasta las rodillas. Muchos proyectos tener una entrada decente a su lugar.

(16:26)

La comunidad está naciendo, esos en todos los países están haciendo, qué es lo que queremos hacer, si queremos hacer un camino, si queremos un baño, o sea, la mayor parte de la gente no tiene baños, *toilets*, etc. Esta nueva organización, de todos los grupos dicen que hagan un apoyo pequeño, no es un gran apoyo, a veces 2 mil o 3 mil dólares. Algo que ellos pueden determinar es lo que quieran a hacer.

Y aquí ustedes ven que la comunidad va planeando, o sea, la idea básica es no solamente *el toilet*, es el camino, es la casa, sino que esa comunidad piensen juntos qué es lo que queremos hacer tratar de crear una reunión de grupos, de solidaridad para avanzar algo.

Entonces el pequeño proyecto, por ejemplo, acá tienen a la izquierda tienen agua. Muchos de la gente se enferman porque no tienen agua aquí limpia. O sea que a veces si hace un pozo más profundo de manera para sacar mejor agua. Arriba, por ejemplo, está una ciudad, hay muchas comunidades y entonces cada una van presentando sus proyectos, que es lo que quieren hacer. Y aquí ven, por ejemplo que tienen un camino para mejorar un poco la situación tener así drenaje, por ejemplo, la salida de agua.

Este año, pues, 185 proyectos han sido desarrollados. Fíjese en este caso, esto es en Iloilo en Filipinas, el gobierno les dio tierra, pero era una tierra muy baja, o sea que si tiene una lluvia como el otro día, pues inmediatamente tiene agua hasta las rodillas. Fíjense, estos chicos que quieren ir a colegios, van empapados; tienen que ir a trabajar. Todos tienen que hacer.

(19:30)

Entonces lo que ellos pensaron con una ayuda de un joven arquitecto. Vamos hacer un puente, un puente de bambú. Entonces, con eso, por lo menos podemos salir *hasta el camino*. Y la gente, pues, piensa eso con un joven arquitecto, lo discuten, y ellos mismos entonces dicen, no hay mucho dinero, son 3,000 dólares son, pero lo que podemos hacer es que nosotros lo vamos hacer y lo pueden hacer con ese dinero.

En todo el proceso, los, a través de los proyectos, que la gente está haciendo con ellos mismos. La gente pobre empieza a tener confianza en sí mismos. En las cosas que pueden hacer. Y eso es muy importante. El pobre uno de los grandes problemas que tiene, es que siempre todo el mundo dice que haga esto. Viene fuera el gobierno, que haga esto, otro de fuera, que, profesionales, gente que viene de la universidad, tiene mucho respeto. No pueden decir nada. Pero en esta manera pues va creciendo la confianza en ellos mismos

En este proceso comienzan a, generalmente no están en una organización, pero si tienen que hacer el proyecto, empiezan a aprender, muy complicado tener relación con nosotros,

pero la gente poco a poco va aprendiendo. Y después cómo manejar dinero. La gente pobre como todos los demás, así como la gente rica hace estafa, la gente pobre también, pero si todos están así participando, es mucho más difícil de hacerlo.

(21:50)

Generalmente, esto es en Cambodia, cuando un proyecto está realizándose. Otra gente que van a hacer el mismo proyecto, lo van a visitar. Ellos hacen, nosotros también lo podemos hacer. Y entonces ven lo concreto y escuchan cómo ellos lo han hecho

En una ciudad, pues, hay varios grupos, pequeños grupos que empiezan a trabajar. Pero entonces ellos se dicen, “nosotros para crecer para tener influencia en el gobierno. Tenemos que saber exactamente, cuáles son los problemas, cómo estamos nosotros, cuántos de nuestro número.”

Muchas veces la gente no tiene identidad *card*, tarjeta de identificación, son tan pobres que no llegan a confirmarlos. Entonces hacen una visión, un *survey*, una investigación de la ciudad la gente misma. O sea, es un censo hecho por la gente, para que la gente esté consciente y pueda trabajar para mejorar esos problemas.

Esto es Cambodia, y es curioso. Cuando la gente empieza a mejorar el agua, por ejemplo esta es una vivienda popular, Era la gente la que había agua sacado del río, y al final el que está al lado mío, ese es el gobernador de la provincia, y este también, aquí el de este lado, es un miembro del gobierno nacional. Cuando la gente empieza a trabajar, o sea, no solamente que están pidiendo, nosotros estamos haciendo eso. La gente del gobierno empiezan a estar impresionados por eso, y dicen bueno, quieren estar también, son políticos que quieren estar en este trabajo.

(24:27)

111 proyectos de vivienda, esto es en Vietnam. Algunos lugares son más difíciles, por ejemplo, Vietnam y Laos, son países comunistas. Es más difícil, tienen que trabajar a través del sistema. Pero, dice generalmente en el partido comunista están los movimientos de las mujeres y las mujeres, según éste partido comunista, si las mujeres van mejoran un poco la situación. Y ellos están apoyando este proyecto

Generalmente el pobre no tiene acceso al dinero, no hay préstamos para ellos. O sea, lo que están haciendo normalmente en *Bombay*, tipo de préstamo, con 20% o al día o al mes. Son préstamos que para la gente que si no tienen mucha entrada la gente pierde todo. O sea que el primer paso es que la gente empiece a ahorrar un poco, no importa la cantidad. Que sean 10 yenes, o lo que sea al día. La cuestión es que empiezan a tener algo cada día que va aumentando.

Y entonces en este grupo en este sistema, por ejemplo, si ellos quieren hacer un camino, pues dan una cantidad de dinero para realizarlo. Pero en algunos lugares, si la gente cuando puede devolverlo, lo hacen, y entonces crean un fondo que es una comunidad de desarrollo, un capital de desarrollo de la comunidad, que ellos en la comunidad no tienen que preguntar a nadie, que ellos pueden determinar cómo pueden hacerlo. Y generalmente poco a poco se va desarrollando. Por ejemplo, con ese pequeño fondo, hay siempre gastos que tiene que moverse para reuniones, etc., pueden dar pequeños préstamos a la gente, etc. Entonces el gobierno, cuando ven estas actividades, ellos también pueden apoyar.

Muchas veces, por ejemplo, si cada persona, por ejemplo, en este fondo, por ejemplo, 100 yenes, si son, en algunos lugares, son 10,000 miembros, son grandes números de gente, reunidos en pequeños grupos. Ya tiene 100 mil yenes, cada uno da 100 yenes.

(28:03)

O sea que ellos, entonces esos grupos comienzan a dar pequeños préstamos, Préstamo que es importante, recuerdo a un amigo mío, estoy impresionado, porque estaba en la India una familia tenía una enfermedad, y necesitaba 200 yenes para tener algo para mejorar ella, no tenía dinero, y la chica murió. O sea que es posible que la gente pueda tener un poco de dinero.

Este sistema de CDC, Comunidad Desarrollo del Capital. Es, la comunidad es la encargada de determinarlo. Pero invitan a la gente del gobierno, por ejemplo, si está el mayor o alguien del gobierno que vaya. Porque entonces ellos no manejen dinero, el gobierno maneja dinero, ellos tienen que decir que ellos participan, entonces muchas veces ponen más dinero en eso.

A veces la gente de universidad, es muy importante de tratar de involucrar a la gente en estos proyectos. Ya para este año hay 107 pequeños fondos en 98 ciudades. Para hacer una mejora, ciertamente el trabajo la gente empieza; lo sabemos es que no puede llegar hasta el final, el gobierno necesita participar.

(30:00)

Esta fotografía es de amigos míos en Filipina, que está trabajando en el gobierno nacional de *local government* alto cargo. Esta señora está trabajando con nosotros por 30 años. Ella, es cargada de los préstamos, del gobierno también, préstamos para conseguir y comprar la tierra. Son préstamos que el gobierno da por 25 años, y entonces la gente puede tener o comprar la tierra en que no están. O sea que, es muy importante, este es un grupo de gente van a hacer, que estaban antes de peligro de ser erradicados, pero entonces, el gobierno, hablando con el gobierno, se están pensando cómo poder quedarse en el mismo lugar donde este tiene sede del trabajo con ayuda del gobierno, y recibir un préstamo para edificar allí su casa.

En Paquistán es un proyecto muy interesante, pues, desde el año 80, hace 30 años, que la gente empieza a hacer sistemas de cloacales hechos por la gente, por ellos mismos. En Japón, eso no... los podrían a todos presos inmediatamente. Para Paquistán, pues el gobierno cuando están esos lugares informales, no se mete. Fueron capaces de hacer, ahora tienen casi 2 millones de personas, que haciendo el sistema de la casa y de las cloacales debajo de la tierra. Y ahora el gobierno los ha aceptado y todos esos pequeños canales de las familias están organizados en grandes canales, y con el gobierno hace la disposición final.

Lo que es importante es que poco a poco el pobre no está considerado como “*Squatter*” como ilegal, como fuera de la sociedad, sino como ciudadanos. Y cuando esto fue en Paz es uno de esos lugares, son *touchworth*, donde toda la gente de del sur nunca va a poder pasar ni entrar en este lugar, pero ellos han conseguido y conseguido el proyecto de vivienda. Entonces La gente de *abroad*, de Sri Lanka, de... viene a visitarlo, la gente del gobierno ha venido a visitarlo. Esa persona ya no es *so much*, esa persona no es despreciable sino que es, convirtiéndose en ciudadano.

(33:36)

Fíjese, desde el comienzo de este programa, los gobiernos de distintas maneras, no solo solamente dinero sino, por ejemplo, tierra, en contribución, en infraestructura. Más de 75 millones de dólares americanos han contribuido, en toda Asia.

Ya el sistema que tienen aquí, por ejemplo, trabajando en JICA, vi varios proyectos de JICA, por ejemplo, en Indonesia. Generalmente la evaluación es si el dinero que se ha dado se realizó o no; muchas veces ¿cuál es la relación con la gente?; es muy poco. Eso es lo que quieren hacer, que esa evaluación sea proceso que pueda repetirse este proyecto de nuevo. Por ejemplo, esto es lo que decía que un proyecto de vivienda, si el dinero se ha hecho, se ha invertido en la vivienda con eso, está *OK*.

(35:04)

Pero si eso es realmente, si el proyecto beneficia a la gente pobre o no. Eso nunca se ve mucho o demasiado. Lo que se hace aquí es, por ejemplo, esa señora, esto es un proyecto, yo la conocí, estaba casi en arapos². Ella poco a poco fue dirigiendo su comunidad, empezaron hacer pequeños ahorros y ellos planearon su casas ya está hecha la construcción. Entonces se ha enterado otra gente, y quieren hacen casas en este planeamiento. Pero invitan que vaya allí, entonces este grupo es el que va a preguntarles a ver qué es lo ha hecho. Por ejemplo, las preguntas que hacen, o sea, todos están en traje de los domingos, realmente esa gente es muy muy pobre.

² estar en arapos: adjetivo calificativo, una persona que viste de ropa desgastada que vive en la calle.

Las cuestiones que hacen son los siguientes:

¿La gente ha participado o sea todos ustedes han participado en el planeamiento y en la implementación o no?; ¿es alguien de afuera que ha hecho las cosas o no?; ¿la manera de utilizar dinero es transparente o no, o ha oído problemas?; ¿cómo fueron las negociaciones con el gobierno?, ¿cómo consiguieron ustedes la tierra; que es lo que ustedes nos dicen para nosotros?

(37:00)

Y todas esas respuestas están, hay una revista también en este programa, que se manda a todos. Y todas las preguntas, si hay respuestas poco vergonzosas, pues también las ponen, adelante. O sea que fundamentalmente, que la evaluación es una experiencia para comenzar el nuevo proyecto. Yo creo que en estos últimos años, se están abriendo nuevos horizontes para el pobre que está participando en esto. Ellos son capaces de discutir, buscar soluciones, negociar con el gobierno y realizar el proyecto.

La gente empieza a tener relaciones con el gobierno y con otros grupos. Y eso es, entonces, lo más difícil de la gente pobre que están como separados de la sociedad. Si tienen problemas, no tienen como apoyarlos; y tienen así cierta confianza de que ellos pueden hacer cosas con cierta ayuda.

Aquí, por ejemplo, en esta fotografía, aquí está el alcalde de una ciudad, y estos son los dirigentes de los pobres. Hablando con directamente, hay una cierta *partnership* porque al gobierno, si hay algo que pasa bien dentro de su ciudad, le gusta mostrarlo y eso lo hace participar. Ciertamente tenemos muchísimos casos de esos, pero es un *approach*, que es muy importante, que muy pocas agencias, sobre todo, internacionales, están dispuestos a aceptar, generalmente, todos van a través de las grandes compañías y etc. porque quieren apoyar esas grandes compañías.

(39:32)

Este es un proyecto en Myanmar. Fíjense que aquí los jóvenes arquitectos lo ayudaron a planear a la gente. Y es implementado sin apoyo del gobierno, pero (son) la gente ha sido capaz de apoyarlos.

Finalmente creo como todos aquí son los profesores, yo creo que una cosa buena que ha sido en este proyecto es la participación de los jóvenes, los jóvenes universitarios. Aquí muchos de ellos son arquitectos... en otro video... hay en Latinoamérica por ejemplo, la participación de jóvenes universitarios en un movimiento que se llama “Techos” de Chile, que estuvo en Colombia, Uruguay, 19 países.

Fíjense que hay como 500,000 de muchachos y chicas han participado, que ellos van a

las villas a hacer y a ayudar la gente por 2 o 3 días, pero eso es una visión, en las cuales integran el país con la gente. Esto es una de las cosas buenas que han pasado en esto. Hay como 200 o 300 jóvenes arquitectos en Asia por rendimiento.

Estos grupos, algunos de los grupos han comenzado mucho antes. Pero la organización de todos los asiáticos de comunidad arquitectos en 2010, haciendo, tratando de apoyar a distintos grupos unos a otros. Este programa ha sido muy muy importante. Porque los arquitectos aquí hacen, no es que les haga un plano a la gente, sino que ayudan a la gente a hacer los planos por ellos mismos. Este *workshop* está continuamente haciéndose.

O sea que la gente participa en el plano. Tienen, por ejemplo, en Asia, muchas veces, las mujeres, siempre son los hombres que determinan en lugares pobres. Pero aquí, pues, si es necesario hace grupos especiales de las señoras todo eso, y ellos les van enseñando cómo planear su proyecto.

Esto es en Myanmar, es una casa como más o menos de 30,000 yenes, más o menos. Aquí les van enseñando cómo hacen una aldea, ellos consiguieron un terreno, y entonces planean cómo van a planear su aldea ellos mismos.

(43:20)

Yo creo que aquí lo que es muy muy importante, es que se desarrollen las capacidades que están latentes en todas las personas. Estos están haciendo un puente de bambú en el Sur de Mindanao en Filipinas. El grupo este de arquitectos son 200 más o menos, no se quedan ellos solos, sino que empiezan a conectarse con las universidades. Entonces tienen *workshps* aquí, tienen *workshops*, que en lugares pobres, y los tienen allí mismo.

Pero también van a las universidades, entonces empiezan a planear cómo se pueden hacer con los profesores, generalmente los profesores tienen así deseos, generalmente el gran problema, les cuento ahora, que tienen en cuenta que es mucho más egoísta que 10 o 20 años hace. La sociedad está transformando así mismo. Entonces cuando ellos empiezan a planear algo para otros grupos, es un cambio.

Y muchos profesores quieren tener un sentido social en sus clases. El grupo ha tenido, por ejemplos, 30 *workshops* en 13 países, continuamente en estos últimos 4 años. Donde están los grupos aquí, pues tienen así en India, prácticamente en todos los países de Asia, en Laos y en Vietnam. Es algo que cuando ven a los profesores, es algo que se van metiendo, y están tratando de pensar cómo van a hacer paso siguiente. Yo creo que es algo muy importante en la función de la universidad. Me decía un arquitecto en esa reunión que teníamos *Kenchiku gakkai*, que en la universidad en arquitectura solamente, siempre se está planeando con mucho dinero, y ese

“Un encuentro entre Asia y América Latina en el desarrollo humano”
--- Actividad de la ACCA (Acción Cumidad Coalición Asiática) ---

mucho dinero del país, se va acabando, se va acabando.

(46:21)

Y ¿cómo podemos hacer su ideal más feliz?, las cuales, la mayor parte de clase media para bajo no puede tener su casa, cómo es posible hacer eso. Decía un *topic* muy interesante, comienza toda la visión nueva de arquitectura, comenzó en Manchester, cuando la horrible situación de los pobres ingleses, que estaban en la industrialización, que eran gente que empezaba a trabajar de los 5 o 7 años y a los 15 años murieron. Comenzaron a transformarse la visión de la arquitectura. Y tuvo influencias hasta que llegó un momento en el cuales los niveles de vivienda era muy alto. Y es algo que quizás para hoy pensando en día de mañana no se va a poder seguir con el mismo alto nivel de vida

Pues, hasta ahora, pues, más o menos, mil jóvenes, profesionales han participado en estos proyectos, yo creo que es una cosa de esperanza. Ellos están haciendo un montón de libretos, folletos para explicar esto, tienen vídeos, montón de actividades que se están proponiendo. Estos son cuatro de los líderes que van creciendo la gente en grandes números.

¿Quieren tener alguna pregunta?

(48'19)

(Editor colaborador: Andrés Mora Vera)



講演録

(平成22年度～平成25年年度)

スペイン語・ポルトガル語近親言語文化圏間の
外国語教育と相互理解の諸相

2014年2月2日作成

編集 名古屋大学大学院国際言語文化研究科
水戸博之